

昭和50年度前期研究報告書〈004プロジェクトチーム〉

西日本における 暴走族の実態と問題点

長 山 泰 久

長 町 三 生

鈴 村 昭 弘

長 岡 利 貞

1975年10月

(財) 国際交通安全学会

はじめに

本プロジェクトは学際的研究のトレーニングの一環として設置されたものである。トレーニングのためのテーマとされた暴走族の問題に関して、研究開始の時点で本プロジェクトチームのメンバーは、これまでに何ら実態を知らず、問題意識も持っていなかった。無から出発したわれわれにとって先ず実態を知るところから始めることが大切であった。そして半年という限られた期間では西日本各地の暴走族の実態を知ること以上には出ることができなかった。ここに纏める報告書はその意味で事実を述べる以上につつこんだ分析は必ずしも十分であるとは言えない。ただ実態を知っていった過程において、いかに西日本各地における暴走族と東日本における暴走族が異った現象形態を示すかについて理解し、描きだせたことは成果の大きな部分である。

今回の暴走族に関する研究の情報源は各府県警察本部の担当者から示された各種資料と意見、および過去の新聞記事から得られた事実である。暴走族に関するその他の情報源からの情報、資料、そして各種の可能な諸調査による分析は今後に残された問題である。

今回の調査に当って非常に多くの便宜を与えていただいた警察庁交通指導課、富山、愛知、京都、大阪、兵庫、岡山、広島、香川、愛媛、高知の各警察本部の方々に深く感謝の意を表します。また、003プロジェクトチームの千葉康則先生、スタジオF阿部氏、そして毎回の会合にご出席いただき、有効適切なお意見でわれわれに大きな示唆を与えて下さった長岡利貞先生（愛知県教育（委）指導主事）にも深く感謝いたします。

また、事務局の鈴木、山根両氏は事務的な側面のみならず研究内容について鋭い意見を述べ成果の取りまとめに際しても実質的な作業を分担していた

だいたわけであり、プロジェクトメンバーであったとする方が適切である。

0 0 4 プロジェクトの研究促進に蔭になってお力添えいただいた両氏に深謝の意を表します。

目 次

I	西日本型暴走族の実態	3
1.	歴史的過程からみた	3
	暴走族事案の地理的発生分布	
2.	西日本における	
	暴走族事案の実態	14
i	西日本型暴走事案の概要	14
ii	暴走行為の実態	16
iii	群衆の行為の実態	16
iv	暴走車両・群集い集の	17
	時間的関連性	
	・ 富山 17 ・ 高知 23 ・ 福山 26	
II	統計的にみた暴走族	30
1.	年齢からみた暴走族	30
2.	車種からみた暴走族	35
3.	職業からみた暴走族	46
4.	暴走行為の動機	46

Ⅲ 暴走族にみられる西日本と 東日本の相違	51
1. 新聞の見出しからみた 東・西日本型暴走族の相違	51
2. 東・西日本型暴走族の諸特性 の比較	58
Ⅳ 暴走族をどう捉えるか 前期調査（西日本）からの理解	66
○鈴村試案	66
○長山試案	70
Ⅴ 暴走族研究の今後の方向	76
付録 1. 暴走族グループ名の分析	80
2. 府県別グループ名について	83

I 西日本型暴走族の実態

1. 歴史的過程からみた暴走族事案の地理的発生分布

暴走族の発生史をたどった場合、どこまでを暴走族と同種のものとしてできるか異論はあるかも知れないが、昭和30年頃から散発しだしたカミナリ族、音キチ族、カーキチ族にまでさかのぼることができる。彼らは数人の仲間で爆音をとどろかせ、曲芸的乗り方で仲間同志、技を見せあって楽しんでいたところに今日の暴走族の原型がみられる。大阪では昭和33年の阪奈道路の開通とともに起伏に富んだ完全補装の道路で二輪車の曲乗りを競い合っていたものである。^{*}

暴走族の発生事案の発生場所の関係を日本地図の上にプロットし、その時間的関連を示したものが図1～図5である。○の大きさは事案の大体の大きさを示し、その中の数字は発生年度、発生月、あるいは発生の日を示したものである。

図1にみられるように、昭和30年から昭和46年にかけては主として西日本各地におけるものであった。特に昭和42年に京都宝ヶ池国際会館周辺道路で行われた暴走行為は今日の西日本型暴走族のパターンのはじめての現われであった。

交通不便な京都北部の国立京都国際会館付近に集まった暴走車が段々数をまし、スピード、交差点でのターンなどで腕を競って楽しんでいたが、警察の規制、取締りに対して抵抗し投石、暴行事件などをおこし、大きな問題となった。完全な取締りと規制によってここでのサーキット遊びが不可能となってから、尼崎、橿原、神戸などに小規模な事案が飛火していたし、43年には広島、44年には名古屋、和歌山で同種の騒動がおこっている。

昭和45年になると大阪の阪神高速道路が万博関連道路として形をとと

^{*} 資料は、警察庁交通指導課のまとめた暴走族の変遷の年表、月刊交通

1975.8と朝日新聞縮刷版から得たものである。

のえ、さらに万博が3月15日から開催されるに従い、多車線の環状道路しかも一方通行道路、さらに適当なカーブを有する、スピードとジグザグ急回転を楽しむのには最適の道路条件が完成した。

すでに4月には夜間10時の万博終了後周辺道路でのサーキット遊びが行われ、問題となっている。高速道路網の整備にともなって全国各地から万博会場へ車で訪れるものも多くなり、万博場周道路でサーキット遊びをしたことが地方の若者の間で話題となり勲賞となったとも伝えられている。

昭和30年代には東京での事案が伝えられているが、40年代になると主として西日本を中心として各地で暴走事件がおこっている。

図 一 1

昭和 30 年 ~ 46 年

暴走族 事案発生分布

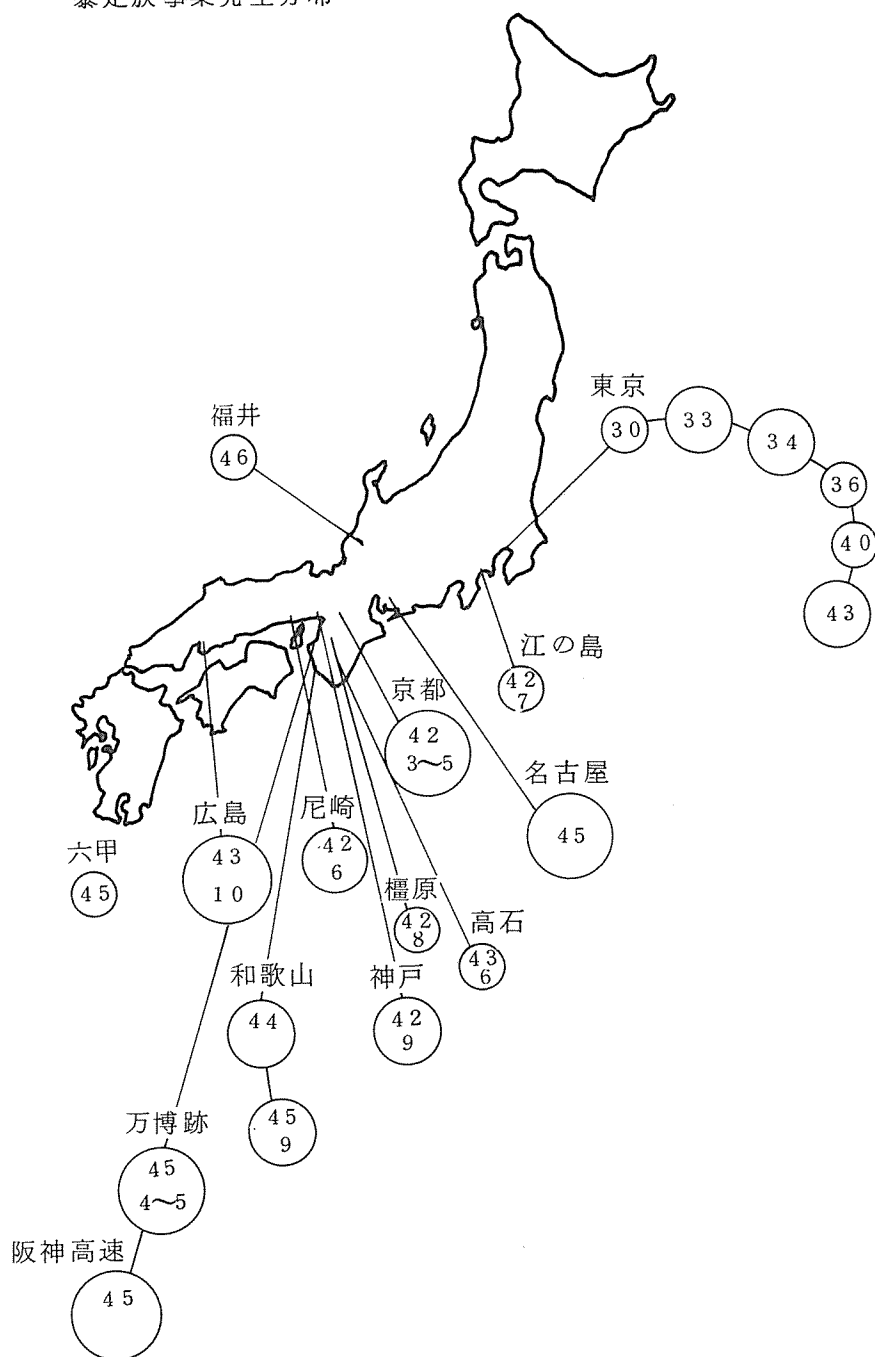
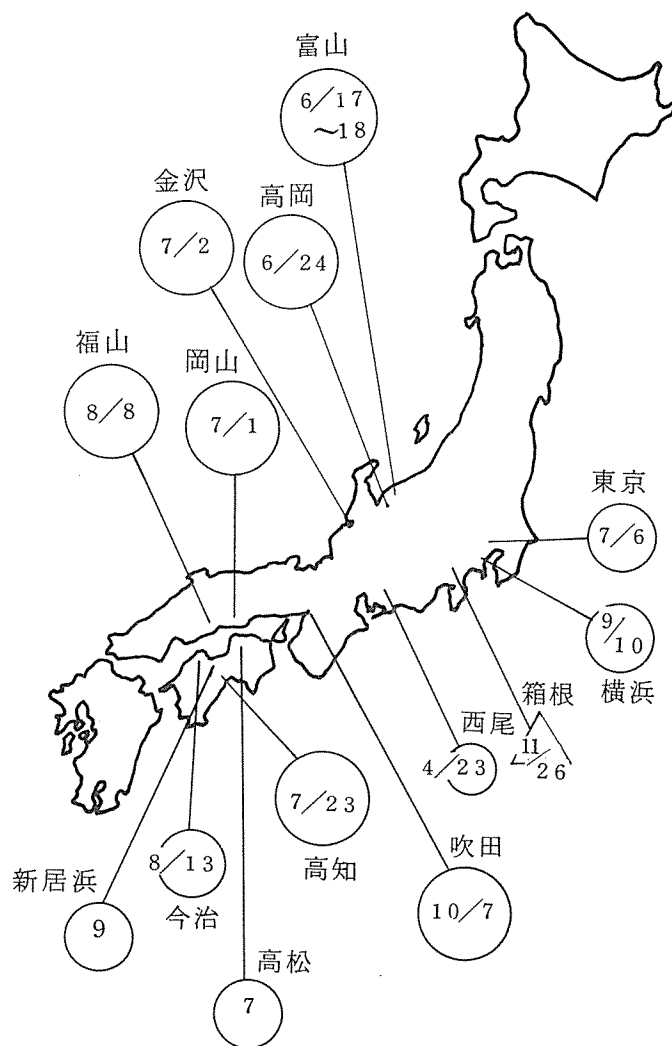


図 2 で示した昭和 47 年も事案の主体は西日本である。万博事案を契機に各地で小規模な暴走行為が伝えられていたが、その後福井、石川などでの経験を経て昭和 47 年 6 月に富山で一般群衆をまきこんだ大規模な暴走事案が発生した。

西日本型暴走事件の新しいタイプの発生であるので次章で詳述する。このタイプの事件はその後北へは伝わらず、再び高岡、金沢と南下して、岡山、福山、高松、高知、今治、新居浜などで一挙に火を吹いた感じがある。万博場周道路でも再び 10 月 7 日に野次馬参加型の事件がおこり、取締りに抵抗し土手に火がつけられたりしている。昭和 47 年度は西日本においては重大事件が各地で発生しているが、東日本においての問題発生はそれ程多くみられていないようである。

図 一 2

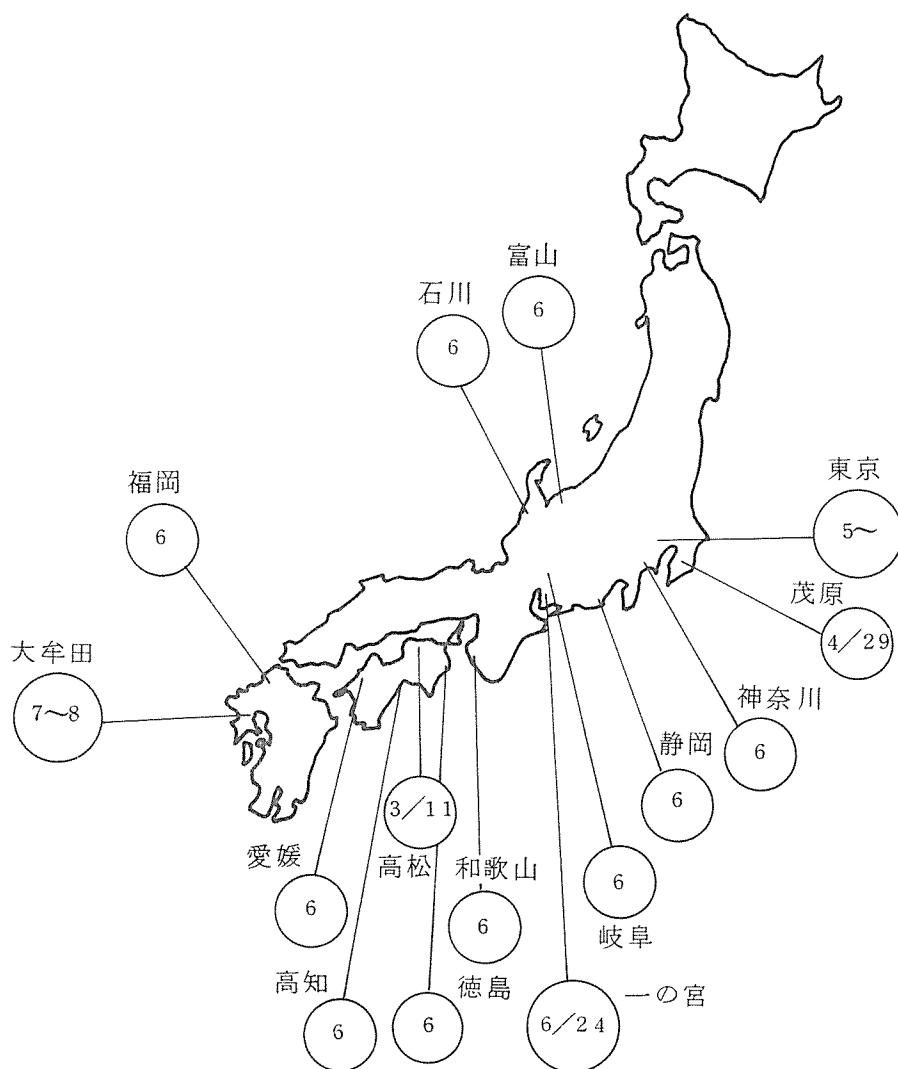
昭和 4 7 年 暴走族 事案発生分布



昭和48年に関しては図3に示した。発生の地理的分布がやや東へも片寄り出した感じがする。西日本各地でもおこっているが、前年のような大規模なものではなく、警察の強力な取締りによって押えこまれた。だが九州の福岡、大牟田などの処女地で大群衆をまきこんだ事件も起っている。

図 ー 3

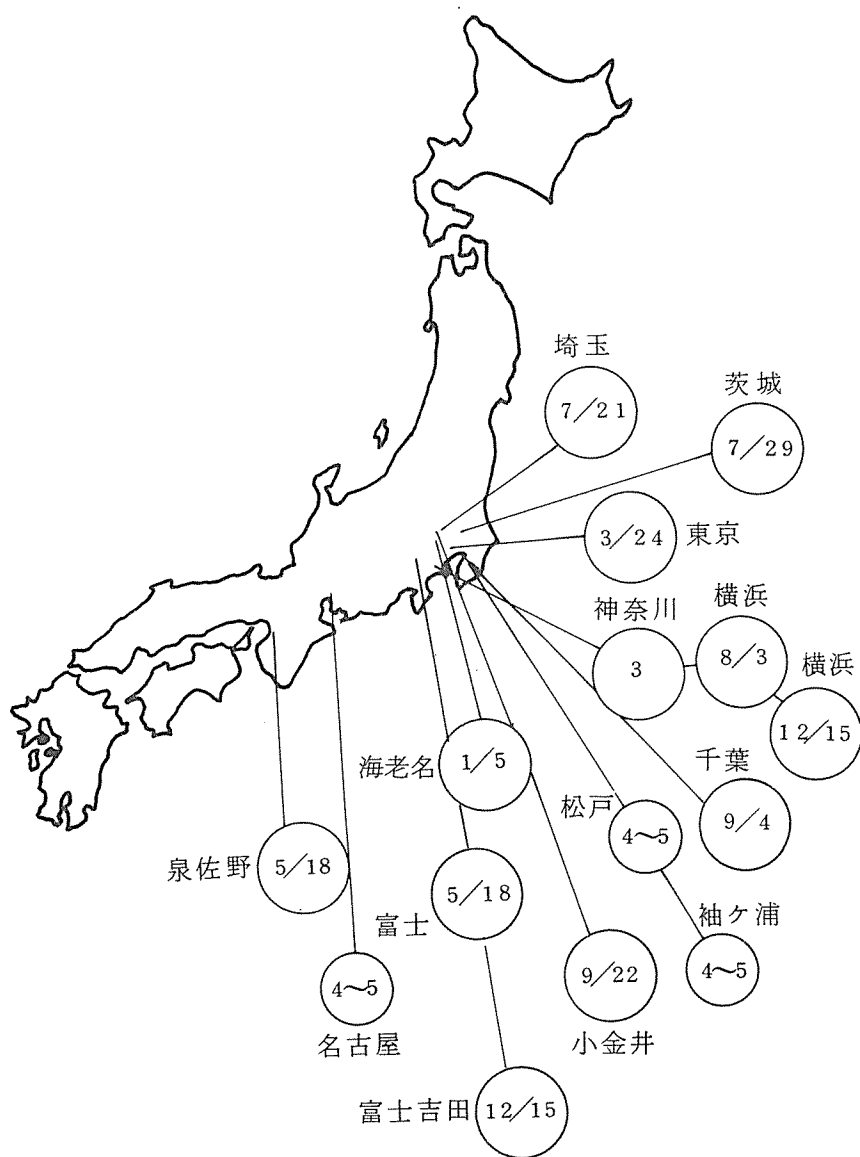
昭和48年 暴走族事案発生分布



昭和49年は図4に示した通りである。この年においては明らかに暴走族の問題は東日本に移行した。もちろん表面に出なかったり、新聞が報道を控えたりしたことによって、一般に知られてはいないが、西日本においてそれまでと同様な事件が継続的に起こっているのも事実である。

図 ー 4

昭和49年 暴走族事案発生分布



昭和50年に入ってから東日本における事案はその規模がますます大きなものになってきたが、西日本においても岡崎と神戸で大事件が発生している。だがこの二大事件の発生過程は両者の間で少し異っている。岡崎は京都宝ヶ池、万博場周道路での型と類似したもので、人口密集地から比較的はずれた地点で暴走行為が行われ、それを見ようとして主として車で集った野次馬がひきおこした騒動であるのに対し、神戸では市役所前で行われた港まつりの大群衆の解散時期を狙って暴走車が暴走行為を誇示し、それに触発され、興奮した一般群衆の騒動である。

西日本各地の暴走事案には東日本とくらべると現象面でいくつかの違いがみられる（後述）。西日本の中では共通性がみられるが、大騒動にいたる経過、地理的条件、群衆の条件などの点で岡崎、神戸でみられた相違のように、いくつかのパターンがあるのでこれらについては章をあらためて詳しく述べる。

昭和 50 年 暴走族事案発生分布

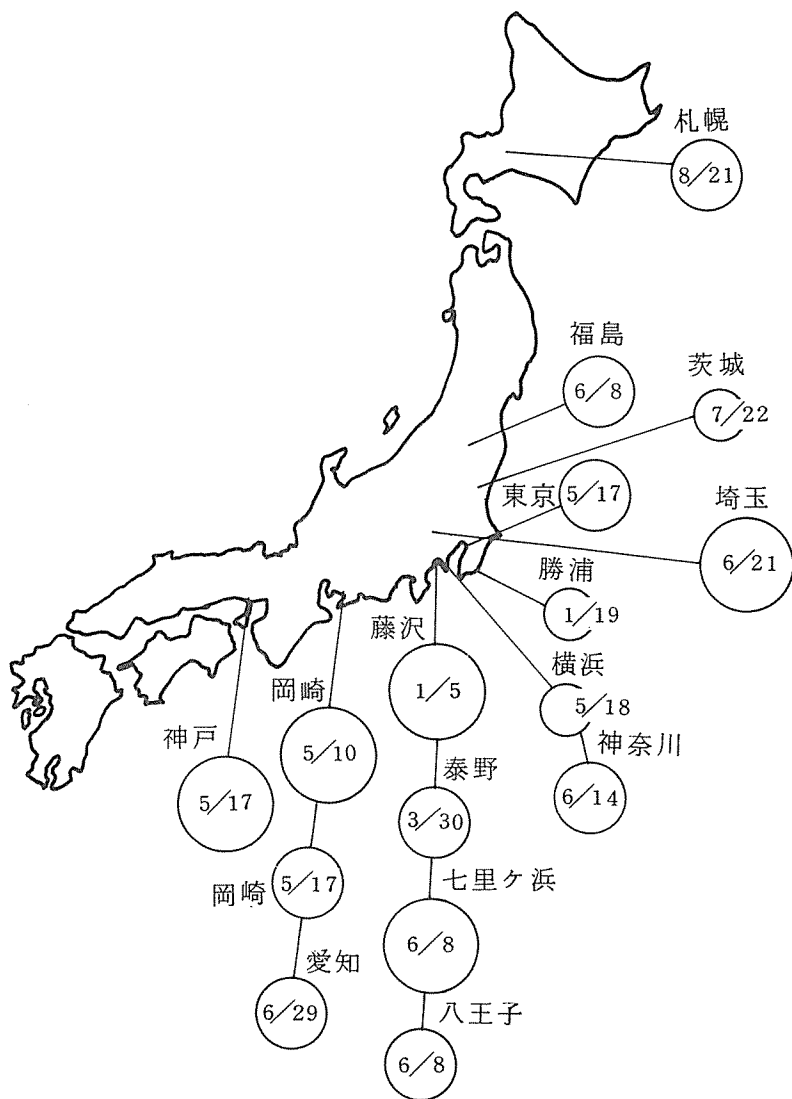


表 1 は本プロジェクトが実際に各地の警察担当者に接し、情報を得た所から作成したものである。

黒地 ■ で示したのは暴走行為が行われた時点を示し、特にその中で突出した棒線 ■ は大きな事件がおこったことを示す。細い線でつないでるのは、その間暴走行為が消滅したのではなく、潜在的に暴走行為が行われていることを示している。

表 ー 1 西日本各地における暴走事案発生の年度別経過

	月	4 2年		4 3年		4 4年		4 5年		4 6年		4 7年		4 8年		4 9年		5 0年		備 考
		1	6	1	6	1	6	1	6	1	6	1	6	1	6	1	6	1	6	
富 山 県	4 7. 4～6											*△								※衝突 2 件 △消防士への暴行
愛 知 県	4 5. 4 9. 4～5 4 7. 4 5 0. 5 4 8. 6																			△警察官への投石
京 都 府	4 2. 3～5																			
大 阪 府	4 3. 6 4 9. 5 4 5. 4 4 7. 1 0																			
神 戸 市	4 2. 9 4 5. 5 0. 5																			
岡 山 市	4 7. 6～8 4 9. 10～11 4 8. 1～8 5 0. 2～6 4 9. 1～4																			
津 山 市	4 8. 6～8 4 9. 6～8 5 0. 5～6																			△警察官への暴行 派出所への投石
福 山 市	4 7. 6～8 4 8. 1～8																			
広 島 市	4 3. 10 5 0. 5～6																			△放火 署への投石
高 松 市	4 7. 7～8 5 0. 2～ 4 8. 1～9 4 9. 4～9																			
今 治 市	4 7. 7～9 5 0. 4～ 4 8. 2～8 4 9. 4～8																			※警察官をひく(2 人) △警察官への暴行(7 人)
新 居 浜 市	4 7. 9～10 5 0. 4～ 4 8. 5～8 4 9. 5～8																			△警察官への投石
松 山 市	4 8. 6～8 4 9. 4～8 5 0. 4～																			※横転 △バトへの投石
高 知 市	4 7. 4～8 4 8. 6																			※放火 (2 輪) △投石暴行(一般)

2. 西日本における暴走事案の実態

ⅰ 西日本型暴走事案の概要

西日本型の暴走事件の実態と問題点を明らかにするためには、昭和47年6月におこった富山市の大暴動事件を記述することによってかなり正確に描き出すことができる。

「四月上旬から県民会館前（駅前～県庁線）において毎週土曜日の深夜暴走族が横行し、暴走運転（蛇行進、急ユーターン、急右左折、追越追抜き、高速運転、急発進、急ブレーキ、信号無視、警音器乱用、爆発音、これにともなうキーキー音の発生など）を行っている。

暴走車は当初十数台であったが逐次増加している。」*

「これに対し、4月28日（土）より、県交通機動巡ら隊と富山警察署交通課が協力し、スピード取締り、交差点における取締りを強化したところ、暴走族は富山市公会堂周辺の国道41号線に移行した。5月13日（土）ごろから暴走族と野次馬が公会堂交差点周辺に集合し、当初250名位であったのが、その後毎週増加し、警察官の取締りを妨害するだけでなく、警察官に対する暴行、投石、カンしゃク玉を投げる等の事案が発生し、野次馬は2,500名に達した。群衆は喚声をあげ暴走族をあおり、道路を一部占拠する等、群衆整理は不可能の状態となっている。」

これらの経過をたどりながら6月17日（土）には数十台の暴走車両が集結するとともに群衆約3,000名とふくれあがり、暴走車と群衆が異様な雰囲気を作り出した。

「午後10時すぎから12時ごろまで、規制地内である富山市公会堂交差点周辺に1,000名～2,000名の群衆が集まっていた。群衆は、暴走車の出現となにかの突発事件の発生を期待して、おおむね静かに待

* 「交通暴力取締整備状況と反省教訓」富山県警察交通暴力取締本部

昭和47年8月、以下引用文

っていた。たまたま、午後１２時すぎから大粒の雨が降り始め、群衆は一番町、西町方面のアーケードのある歩道へ移動していった。そこは規制区域外であり、暴走族はその群衆の移動に呼応したかのように、一番町から西町方面、さらに荒町から上本町方面にかけて暴走を始めた。その突然の騒ぎに驚いた沿道の住民も何ごとならんと不安と恐怖にかられながら群衆とともにこれを見物した。その数は３０００人をこえる状況であった。

歩道上は人でいっぱいになり、ついには人垣をこえて見ようとする群衆のため、車道まではみ出し、なかにはアーケードに登って見物する若者もいた。」

これらの状況の中でいくつかの事件が発生して一層群衆が興奮にかりたてられている。

◎ 午後１１時５０分ごろ、西町交差点においてM（２０才）が信号無視して進行するという無謀な運転をしたことから、交差道路進行中のK（２５才）の車に側面衝突させ、７名の者に重軽傷を与えた。

◎ 午前１時０分ごろ、西町地内のアーケードに登って暴走車に声援を送っていた群衆が、むしろに火をつけたという通報に従って緊急出動した消防車を富山市公会堂付近において停止させ、消防司令補T（４３才）以下３名の消防士に対し、「なんでこんなところを通る。たたき殺してやる。」と脅迫して同消防士等の公務の執行を妨害する事犯が発生した。

◎ 午前３時２０分ごろ、荒町地内においてたまたま同地点を通行中のM（２２才）の車が高速で走行する暴走車に追突されたため、その衝撃で茶舗丸田屋方店舗に激突し、同店舗を損壊する事犯が発生したとき、同場所に居合せた群衆が同店舗に侵入し、店内の商品を窃取したり、器物を損壊したりした。

その他車道にあふれて暴走車を声援したりカンシャク玉を投げたりし

ていた群衆は、タクシーをとめ、包囲して車体をたたいたり、けったりしている。また警官に対する投石もはげしく、一時は警察も手がつけられない無警察状態が現出した。

以上の富山市における事案は、その後西日本各地で続発した西日本型暴走事案の典型的パターンであったが、暴走車両による暴走行為だけでなく、それをききつけて集ってきた野次馬的群衆による暴動的現象が二次的派生的に生ずるところに西日本型暴走事案の特徴があり大きな問題がある。

ii 暴走行為の実態

暴走車両の暴走行為としては高知県警の報告書^{*}に次のような記述がある。

「暴走族となっている青少年は、個別的には悪性の強いものは少ないが、同一行動にはしる者の連帯意識から自然発生的にグループ化し、集団化すると異常な雰囲気支配されて衝動的となり、正常な感覚では考えられないような危険度の高い暴走行為をあえて行っている。

すなわち市街地において深夜交通量の減少した時間帯をねらって数台が競って時速100キロ～150キロの高速で疾走したり、故意にタイヤの摩擦音を発して急発進、急制動、急転回などを行い、中には、見物中の群衆にアピールするように連続2転回や安全地帯を乗り越えての転回などを行い、このほか二輪車にあっては、前輪をあげての曲乗り、高速でスタンドを接地させて火花を出しながらの走行など全く車の安全性を無視した無謀運転を行う。」

iii 群衆の行為の実態

これも高知県警の報告書に従って群衆の行為の実態を示してみる。

「群衆はサーキットゾーンである国道32号線のはりまや橋交差点から中の橋電停まで(約400m)をい集地域とし、特にはりまや橋交差

* 「暴走族取締りと問題点」高知県警察本部昭和47年10月13日

点の西方約 100 m の地点にある横断歩道橋上ならびに南北両側の歩道（幅約 5 m）一帯を占拠し、一部の群衆（約 200 人程度）は車道にまであふれ、終始サーキット行為を見物し、その中で一部扇動者（100～200 人）とみられるものが『やれやれ、がんばれ』等と無責任な声援や拍手をおくっている。

これらの群衆は、常に特異事案の発生を期待し、わずかな接触事故や二輪車の転倒等があると『やった、やった』と喚声をあげて 200～300 人が車道に走り出てくる状況であった。

そのほか、暴走族、群衆とも“カンシャク玉”を路上に投げてムードを盛り上げようとする意図が認められた。

また、群衆による不法行為としては、横断歩道橋下付近にあった自動二輪車を倒し、燃料コックを開いてガソリンを流出させ、これにマッチで放火した事犯があり、さらに約 50 人が消火に出動した消防車の上にかかけあがったり、消火ホースの前に立ちふさがる等の妨害行為をしたほか、交通整理に当たった制服警察官をとり囲んで妨害を行った。」

IV 暴走車両、群衆の集の時間的関連性

大きな暴走事案はある日突然ある場所で発生するわけではなく、必ず時間的経過の中で予徴がみられ、暴走車両と群衆の間の相互作用によって事案がエスカレートしてきて暴動的様相を示すにいたるわけである。

図 6～図 8 には富山（高岡を含む）、高知、福山における暴走事案発生の時期的経過を示してある。

・ 富山の場合

図 6 は富山と高岡での事件経過を示したものであるが、4 月中旬の週末あるいは祭日の前日に 20～30 台の車が集まりだした。そのうちに繁華街をひかえて野次馬が集まりだし最初は 20～30 人であったものが 50～100 人になり、250～300 人、500 人、700 人と週毎に増え、最初のうちはパトカーを囲む程度であったものが、

白バイの点火ランプをはずして妨害するようになり、さらには取締中の警官に投石し暴行を加えるようになった。

その間新聞も５月２２日には「県警と富山署、“深夜暴走族”を摘発、二百四十六人を検挙、富山市の路上サーキット化、近く規制強化」（読売新聞）と報道、６月５日には富山新聞が「ヤジ馬も主役、深夜サーキット取締り劇」のタイトルで群集と警察官のもみ合う姿を中心にした写真五葉を組み合わせた８段抜きの刺激的な記事を掲載した。それまで７００人程度であった群衆も次週には一挙に２,５００人にふくれあがり、交通取締活動を妨害するほか、石やカンシャク玉を投げるにいたった。さらに次週は群衆は３,０００人に達し、前述した通りの無警察状態に達した。

かかる事態に達して警察には交通暴力総合取締警備対策本部が設置され、県当局もこの事態を重くみて強力な対策を講ずるにいたり、県知事、本部長が新聞、テレビを通して市民にうったえかけるとともに、各報道機関もキャンペーンを展開し、地方公共団体、関係機関団体、一般市民団体などが交通暴力追放宣言、三ない運動の積極的推進、企業内処分の実施など、活発な市民運動が展開された。

かかる強力な世論と警察の断固たる交通取締りにより次週６月２４日は暴走車の出現は一挙に減少し５台程度におさまった。群衆の方も三ない運動「見ない」「やらない」「やらせない」の呼びかけに応じて減少したが、それでも最高時には１,２００人程度の野次馬が何かを期待して集まっている。

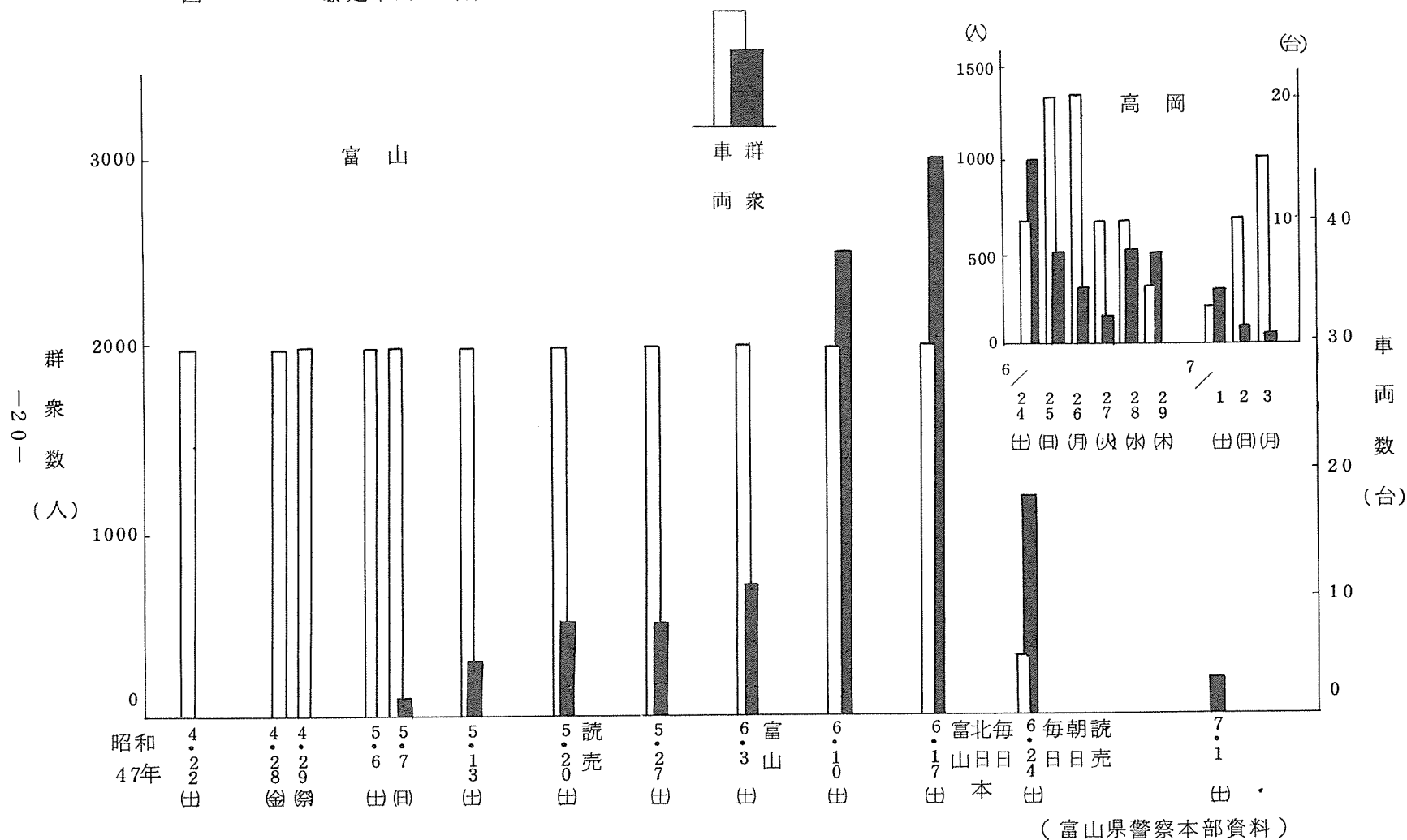
その次の週末（７月１日）にも、暴走車は現われなかったにもかかわらず、群衆２００人程度が集まってカンシャク玉を投げ警官に暴行を加えたりしている。

富山市の場合暴走車両が最初にはきっかけを作ったが、その後は野次馬的群衆が暴動的事件の主役となり、暴走車両がなくなった後まで

も群衆はしばらく消滅することなく、何かを期待して毎週末集まってきた事実が見られた。

富山市の事件をきっかけとして飛火した高岡市内でもその後連日暴走車両と群衆が集まり同様な騒ぎがひきおこされたが、ここでも連日のマスコミの暴走行為批判の論調、市民運動により一週間程度でおさまった。

図 一 6 暴走車両・群衆の時間的経過



県警と
富山署

深夜暴走族を摘発

二百四十六人を検挙

富山市の路上
近づく規制強化

鐵子關目の深夜、富山市内の日取通りで、暗ササキットリームを闊用している「暴走族」の機銃を飾っている県警機動巡ら隊と出くわし、二千日午後九時から二千二日午前四時まで、初夜までの公開取り締まりを実施した。この日の取り締まりは、八咫、上町、清川を機銃警備とも連携、警隊約五百十人を投入するといふ大かりなもので、スピード違反の自百十一人を始め、これまで四回の取り締まりを通じて最高の二百四十八人を道交法違反で摘発した。

この調査は、町内各地で国道八号線や四号線を走らせ、スリルを味わったり、急カーブや急な下り坂に注意をはらみ、岐阜県高山市などから集まってくる干預調整の若者たち百人以上の盛況の下で費用を回収して、市民の健康増進と交通安全意識を

● 暴走族の出発が自ら立ちはじめた月。千九百を改切りに、毎週土曜日とに約五十人の警官を動員、これまでに三回の取り締まりを実施、延べ九十二人を検挙した。しかし、暴走はエスカレートする二百で、警視の取り締まりではとても一掃できないとなった。

このため、警察側では富山県に隣接する富山北、上杉、六町、沢、大沢野、八尾、小杉の六つの広域を求め、富山市内に通ずる主要幹線道路に検問所を設けて、暴走族の侵入をチェックする一方、バスターミナル、團圓バスターミナルを投入して、徹底的に摘発することにした。二、三日夜公開取り締まりの形で実施した。

同夜十時前から次々に富士山内へ集まつてきた約三百人の若いドライバーたちは、きびしい取り締まり体制に驚いたようです。逆に市外地へ逃げ出したり、運転をやめて歩道上了たむろし、取り締まり状況を見物したりしてゐた。

同市内では、これまでの土曜日の並みの三十九人の乗客にとまづ、

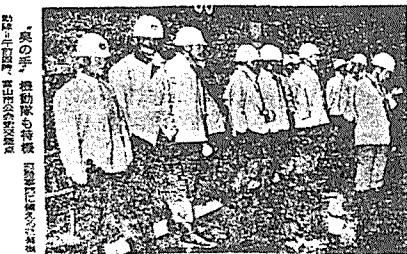


ここは山谷じゃないけれど

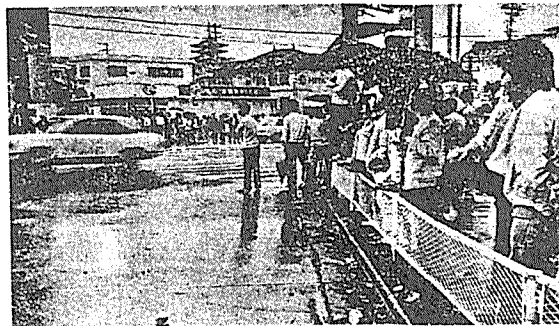
警察官をなぐった男が検束された時「かえせ」「かえせ」と騒ぎ立てる群衆。午前二時すぎ、富山市黒部橋一丁目の黒道八号路上で



民衆の果てに逮捕 警察官をなぐって検束された群衆の一人。午前二時十分ごろ富山市黒部橋一丁目、黒道八号路



警察官をなぐった男が検束された時「かえせ」「かえせ」と騒ぎ立てる群衆。午前二時すぎ、富山市黒部橋一丁目の黒道八号路上で



帰りそびれ、夜明けに未練たっぷり 夜が明けても立ちどまり群衆。午前六時ごろ、富山市公会堂交差点

深夜サーキット 取り締まり劇



照い目の相合いがサ 雨が降っても力をつけてはるアベック。午前三時、富山市公会堂交差点で

高知の場合

図 7 には高知市における暴走事案の時間的経過が示されている。ここに示した数値は暴走族取締を行った過程から得られた数値であり、7 月 5 日の集中豪雨による繁藤地区の山くずれにより取締りが出来ていない時点での実態はとらえられていない。

4 月頃から暴走車両が自然発生的に高知市中央地域（はりまや橋周辺）に集まりだし、スピードを競うサーキット行為を反復するようになり、市民の話題にのぼるようになっていた。警察の取締り強化により、取締中一時的に姿を消しても警官の姿が見えなくなればすぐ暴走行為を反復するという状態で、サーキット騒ぎへのきざしを見せていたものであるが、6 月 19 日付の各新聞で富山市におけるサーキット行為を見物中の群衆による集団暴力事案が大きく報道されるや、これに刺激されてサーキット行為を行う若者が急増した。一般市民の間にも異常な関心と呼び、この時点からサーキット行為を見物しようとして集まってくる野次馬が急激に増加するようになった。

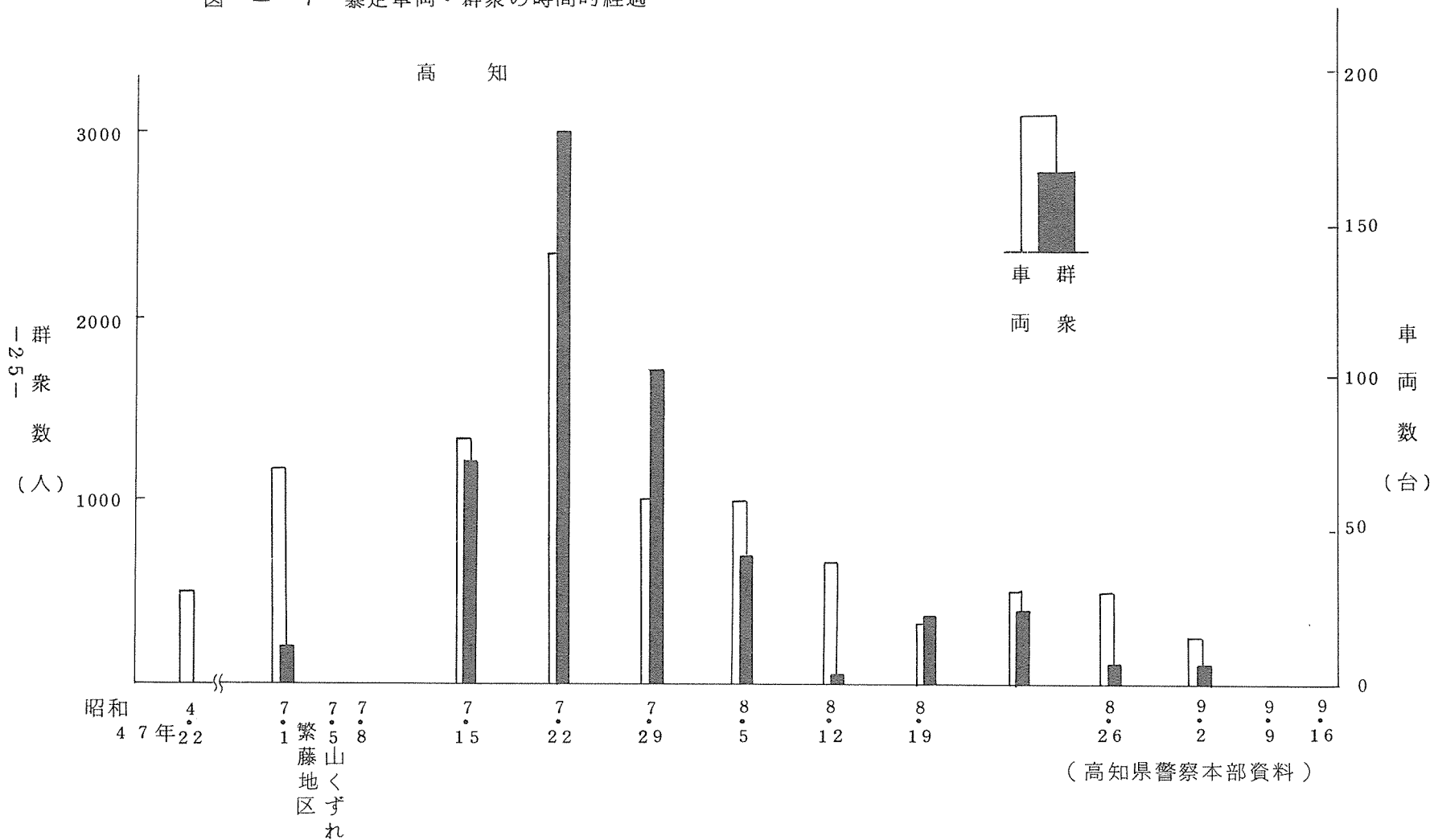
高知においても暴走車両が先行し、群衆が野次馬として集まるようになるが、暴走車の増加にくらべると群衆の増加率はすさまじいものがあり、7 月 1 日に 200 人程度であったものが、一週間おいて 7 月 15 日には、1,200 人、次週の 7 月 22 日には 3,000 人と、3 週間の間に 15 倍の動員数を示している。

ここにいたり県警は、取締対策本部を設置し、次週 7 月 29 日に第 1 回の総合取締りと規制を強力に実施して、力による暴走族、群衆の制圧を試みた。週末毎の強力な対策によって、暴走車両も漸次減少し 9 月 16 日には全く暴走車が現われなくなるまでにいった。この間群衆の数も暴走車両と平行して減少していった。

高知においてもマスコミのキャンペーンが行われ、三ない運動「しない」「見ない」「集まらない」（富山県は「見ない」「やらない」

「やらせない」)など県民運動への展開が試みられたが、富山県ほど強力なものではなかったようである。富山市での事件は最盛期の三週間のちに完全に終息をみたのに対し、高知市の場合には八週間の期間がかかっている。

図 一 7 暴走車両・群衆の時間的経過



- ・ 福山の場合

図 8 に示した如く、福山市においても類似した時間的経過を示し、暴走車と群衆の関係には相互的关系がみられる。

さらに、新聞報道が、暴走行為及び群衆に対して、富山の例と同様に、多大の影響を与えていることは無視できない。(表-2)

図 一 8 暴走車両・群衆の時間的経過

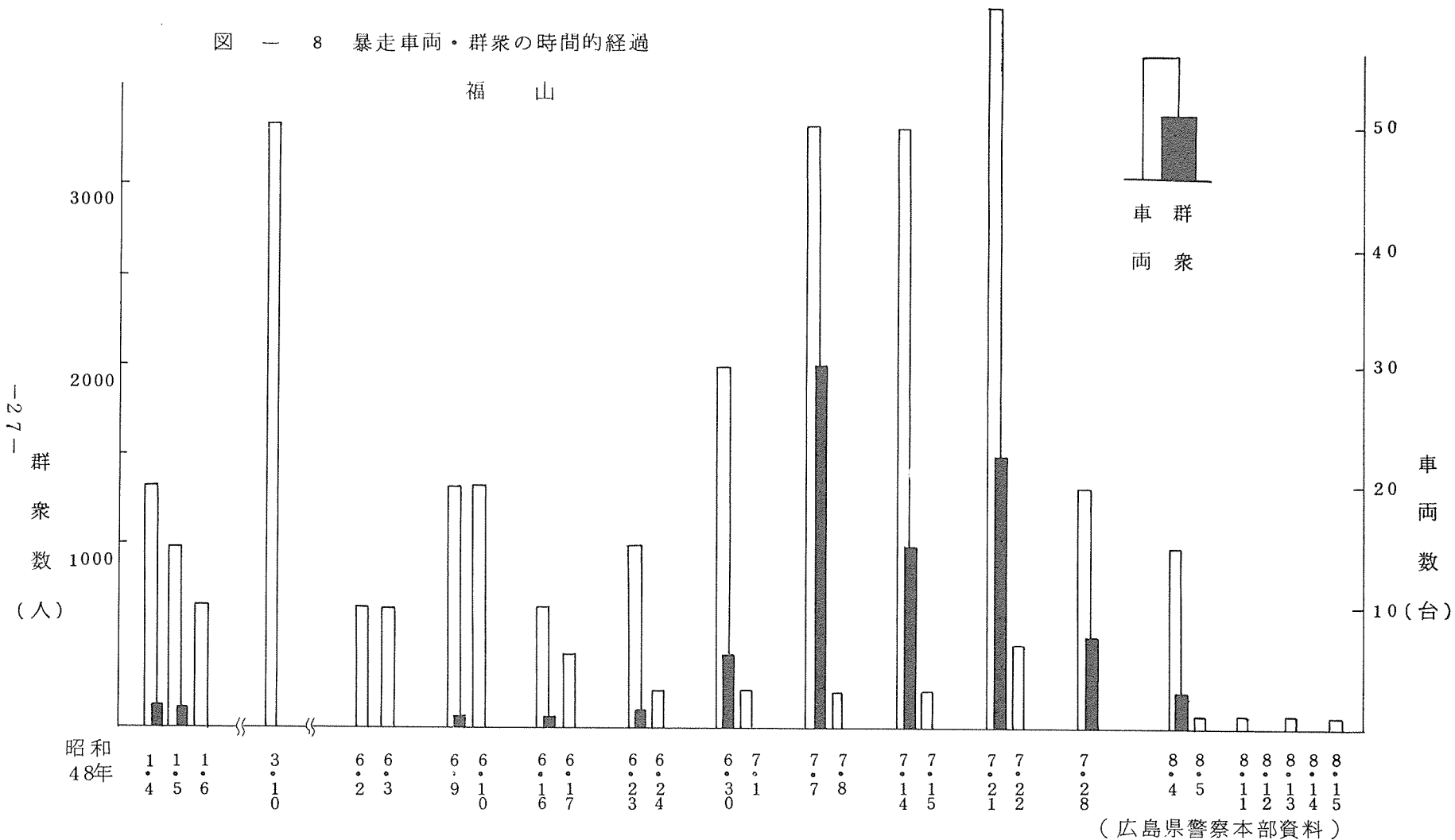
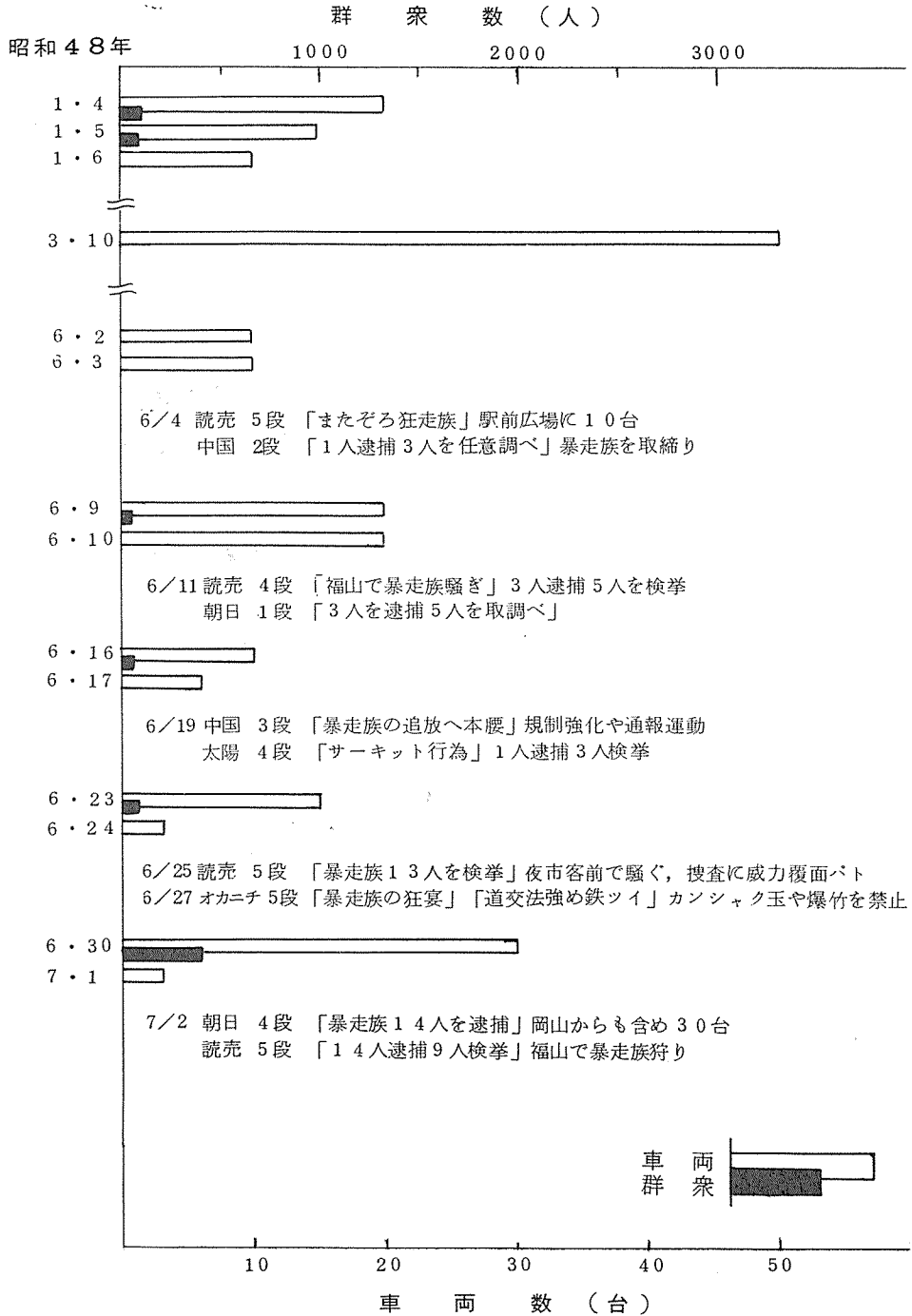
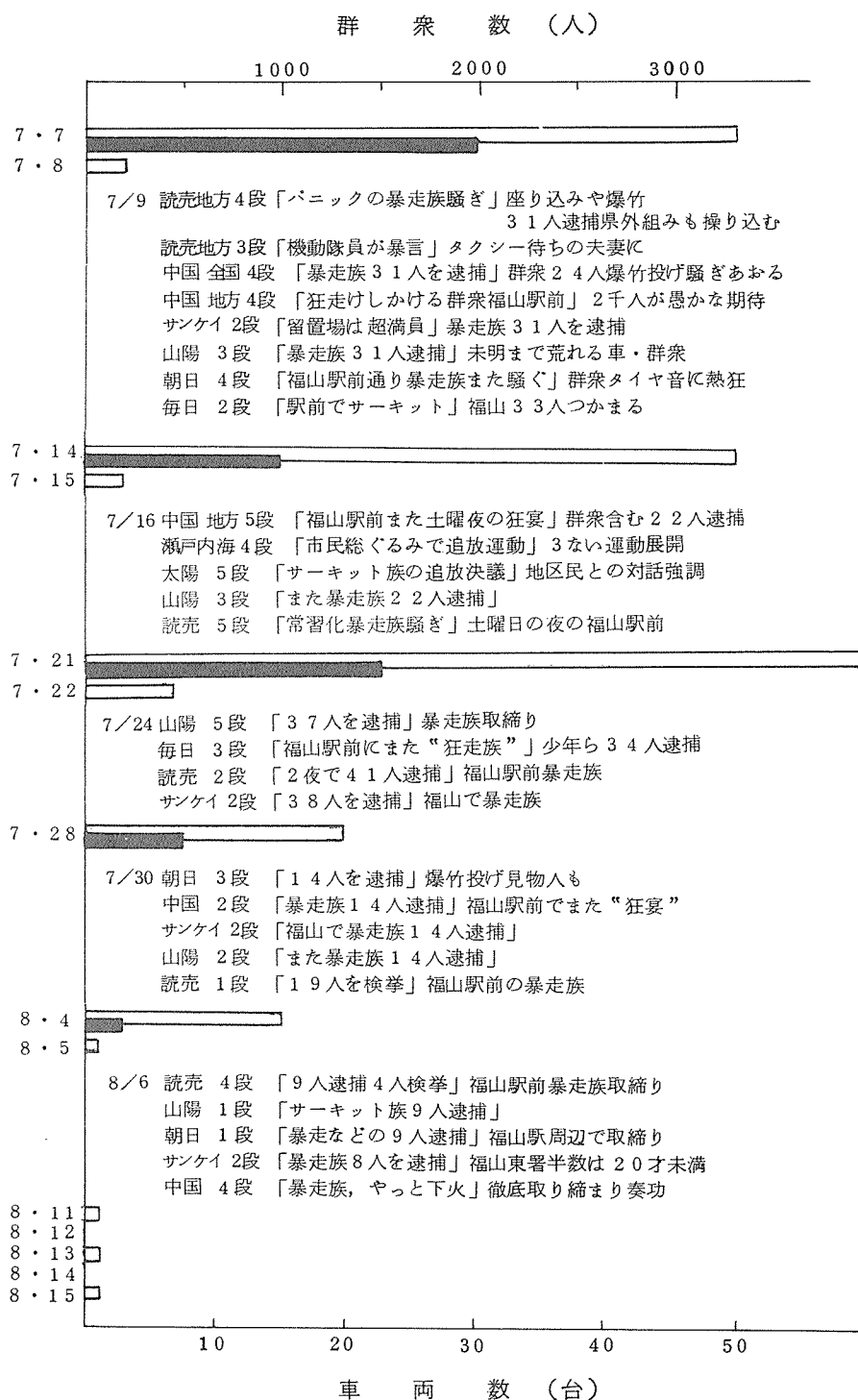


表-2 暴走車両・群衆の時間的経過と新聞報道
(福山の場合)





Ⅱ 統計的にみた暴走族

1. 年令からみた暴走族

暴走族が若者によって占められていることは一般に知られているが、一体どのような年令層からなり立っているかを図9は明示している。

図9は、相対累積度数曲線であるが、曲線は各年令以下の者が全体の何%を含んでいるかを示したものである。曲線が左による程若い年令が主体になっていることを示し、反対に右による程（あるいは下にくる程）年令の主体が高くなることを示す。

全国の運転免許取得者の年令構成を、暴走族と対比するために図の上に示したが、暴走族の年令構成がこれとは本質的に違うことが明らかである。免許取得者の年令のメディアン値は33才であるが、各地の暴走族の年令のメディアン値は18才～22才の間におちてきて、暴走族は若者集団からなっていることが理解できる。

各地別にみると、東日本四県の暴走族の年令構成^{*}が最も低く約18.3才であるのに対し、西日本各地はそれよりも年令が少し高く、メディアン値でみると大阪・高松が19才、高知が19.5才、愛媛・福山が20才、富山はそれよりもかなり高く21.5才となり、富山では26才以上のものも22.7%含まれているなど、他の地区にくらべると高年令者が含まれる割合が高い。

暴走行為そのものが若者の運転行動、若者のもつ特色のあらわれであることは容易に理解できるとして、東日本がより若く、西日本がそれより相対的に年令層が高く、しかも、それが各地方によって異なるのは何故かという問題がある。

第一に考えられる回答は各地の人口の年令構成が異っていることに伴って、暴走族の年令構成が異なるのではないかということである。それを比較

^{*}「暴走族の実態調査（抄録）」国際交通安全学会

青森・栃木・千葉・静岡の暴走族の実態調査による。

するために図10に西日本各地の年齢構成を示した。それによると、東京、大阪、高知など大都市を含む都府県では年齢構成は若い方にかたより、広島、富山は全国平均よりやや高く、高知は最も高いことが示された。

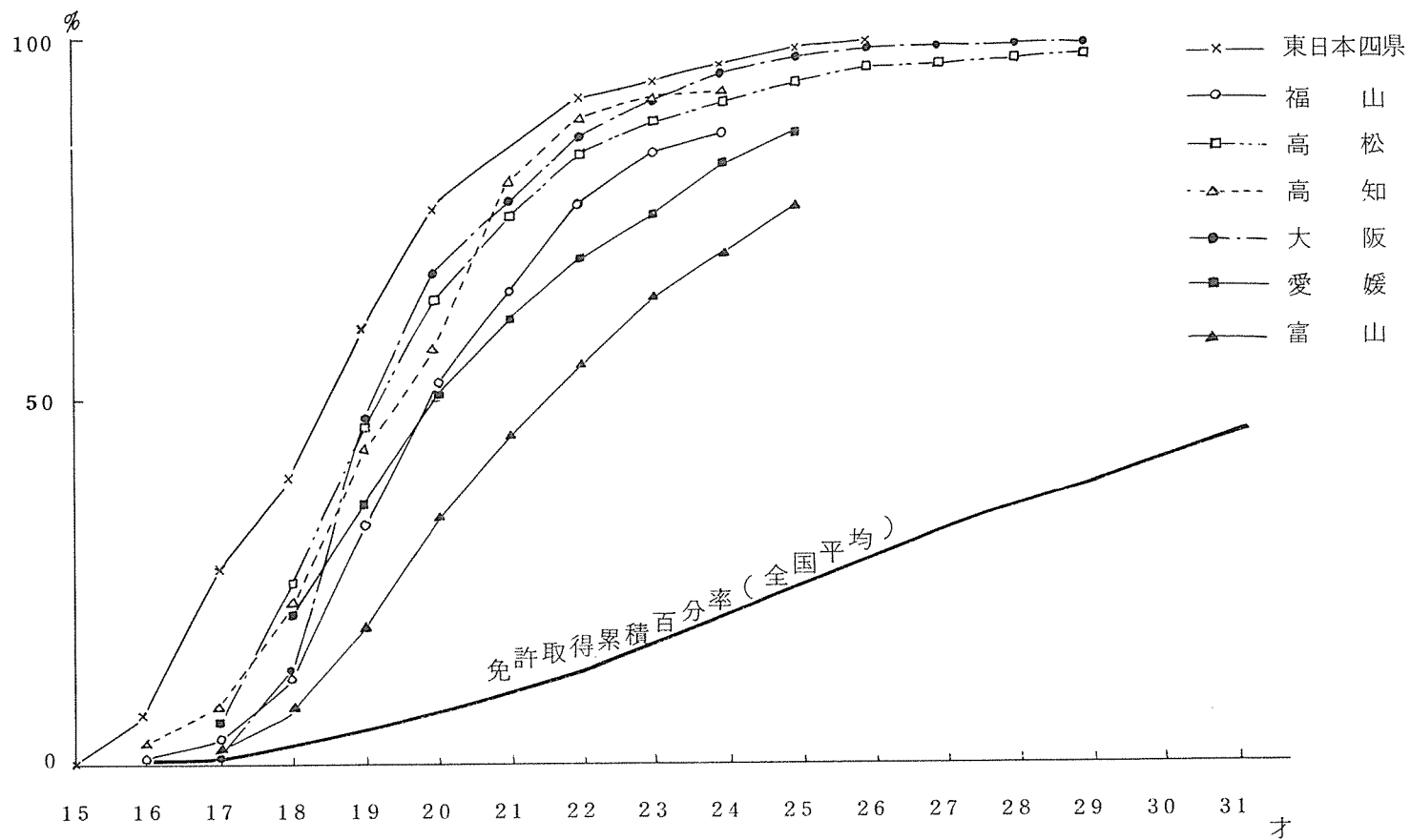
西日本の暴走族の年齢を若い方から示すと、大阪、高松、高知、福山（広島）、愛媛、富山の順になり、府県の人口構成との関係でみると、大阪はたしかにこの考え方に合致すが、富山と高知の関係が必ずしも一致するものではない。

東日本では暴走族に二輪車の含まれる割合が高いことが報告されていて、それに従って暴走族の年齢が低いことが想定できるが、西日本各地の暴走族の年齢の問題については、二輪車との関係、発生時期による変遷の問題、府県単位でみるべきか都市の単位でみるべきか、など各側面からの分析が今後必要となるだろう。

暴走族と野次馬の両者の年齢構成をとったものに、愛知県岡崎と愛媛県とがある。図11はそれを示すが、岡崎における暴走者のメディアン値は19.2才、野次馬は21.1才で、野次馬が年齢層の高いことが明らかである。

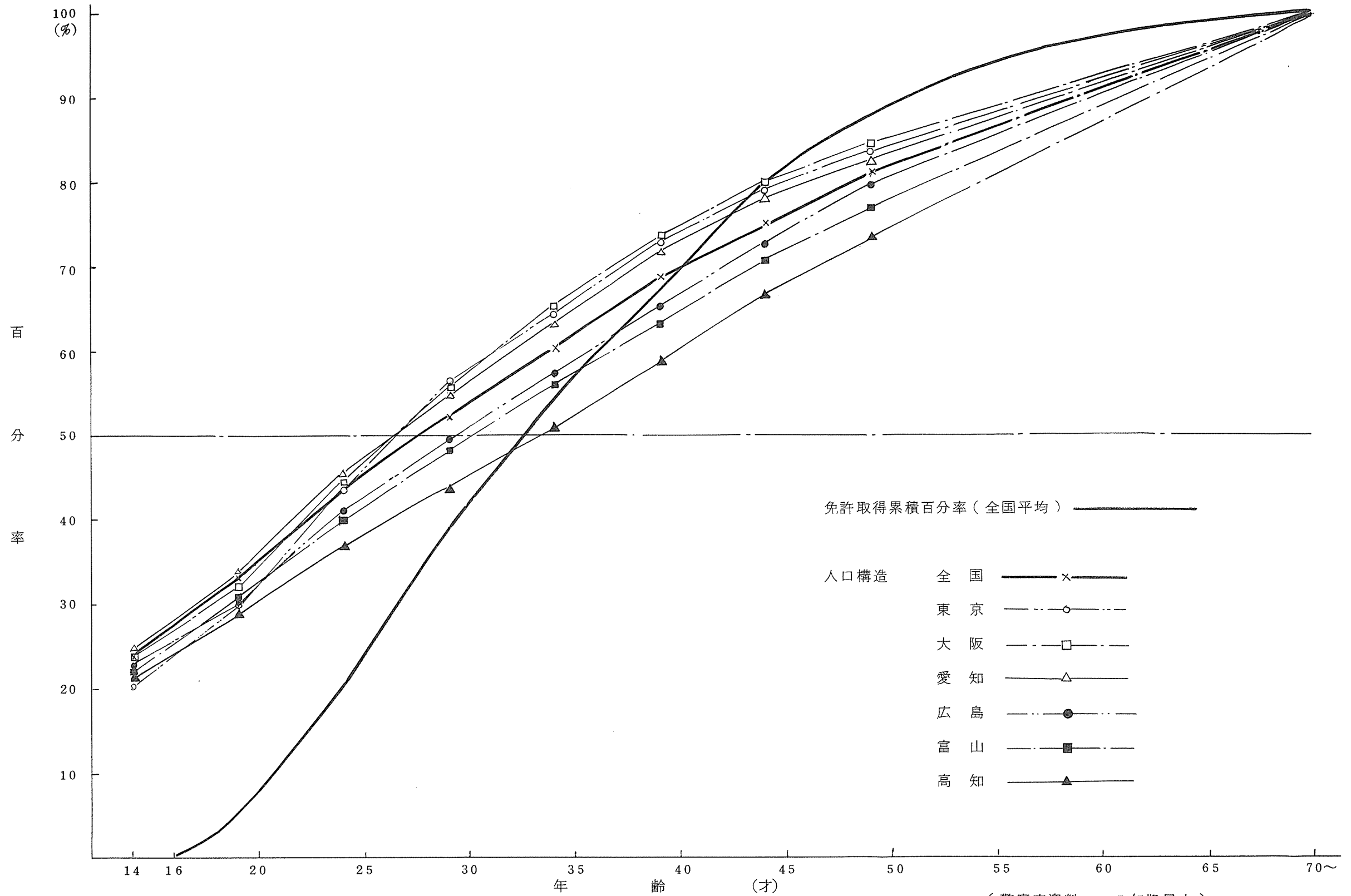
愛媛の場合暴走族は全県にわたってのものであり、野次馬は松山のものであるからか、野次馬の方が年齢が若く、岡崎とは正反対の傾向を示した。

図 - 9 各 県 別 に み た 暴 走 族 年 令 構 成 の 比 較



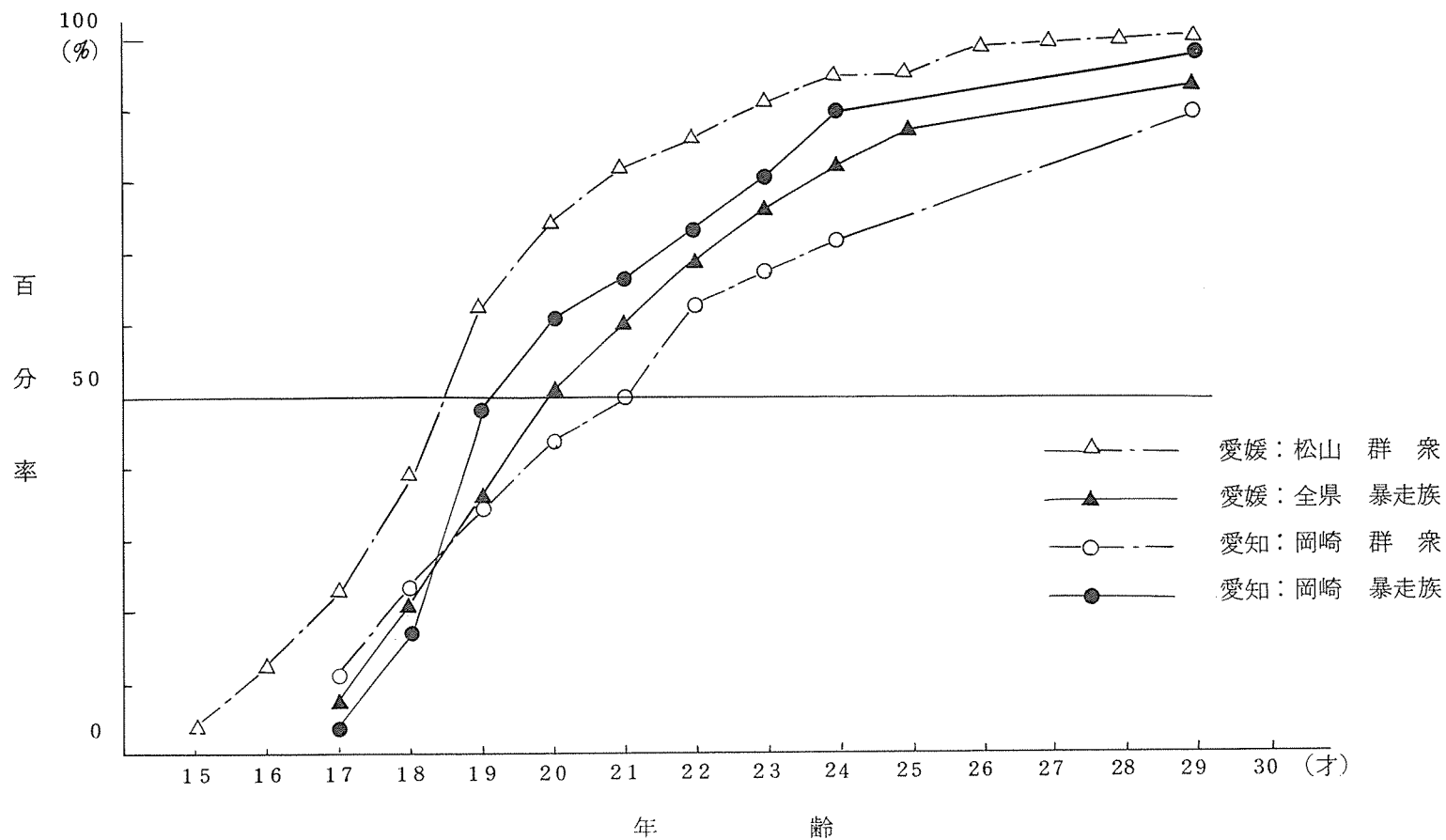
(警察庁・各府県警察本部資料)

図 - 1 0 年 齢 別 に 見 た 人 口 構 造 と 免 許 取 得 者 の 人 口 構 造



(警察庁資料・75年版民力)

図－１１ 愛媛・愛知における暴走族と群衆の年齢構成



(各県警察本部資料)

2. 車種からみた暴走族

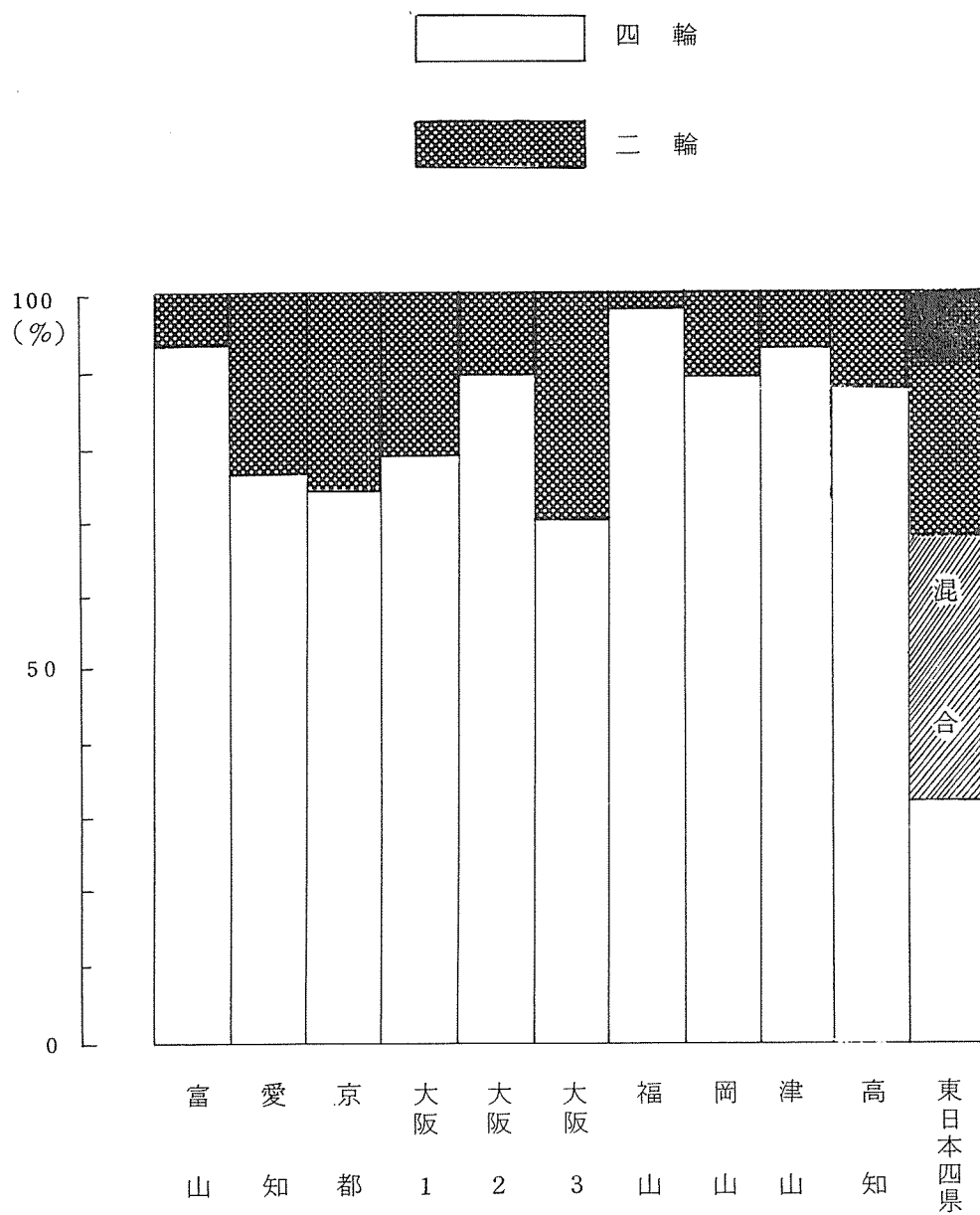
図12は暴走族の用いる車種を二輪車、乗用車に分け比率で示したものである。府県によって、検挙したものであったり、ナンバーチェックによるものであったり、大阪の3や東日本四県の場合のようにグループ数で比率を出したものとかが混っていて、必ずしも比較をするのには精度の高いものであるとはいえない。だが一般に言われるように東日本は二輪車が暴走族の主体をなしているのに対し、西日本各地は圧倒的に四輪が多く、それも大都市よりも地方に行く程、その傾向は顕著である。

表-3 府県別二輪・四輪車別の保有構成率
(昭和49年12月末現在)

県別	二輪	乗用	トラック・バス
青森	.03	.46	.51
東京	.04	.57	.39
栃木	.02	.61	.37
千葉	.02	.58	.40
神奈川	.02	.64	.34
静岡	.02	.58	.40
富山	.01	.57	.42
愛知	.02	.61	.37
京都	.03	.61	.36
大阪	.03	.52	.45
兵庫	.02	.57	.41
岡山	.02	.59	.39
広島	.02	.59	.39
香川	.02	.52	.46
愛媛	.02	.50	.48
高知	.03	.53	.44
四国	.02	.57	.41

(自動車統計月報一運輸省調べ)

図一 1 2 二輪四輪別に見た暴走車両の比率



(各 府 県 警 察 本 部 資 料)

暴走族の車種構成の各地の相違を理解するために各府県別に保有の車種構成をみたものが図13である。自動二輪車が含まれている比率は必ずしも東日本で高く西日本で低いというわけではない。たしかに東京、大阪などの大都市での二輪車保有率は高いが、二輪暴走族が少ない高知で保有率が高いなど、この角度から見ても各地の暴走族の車種構成を十分に説明するにはいたっていない。

各府県別に車種別保有台数、年令別にみた免許の種類などの統計を分析している過程で、（図14、15、16、17、18、表3）二輪免許のとり方に、府県による違いがあることに気がついた。

20才以下の若者の二輪車免許取得の傾向はいずれの府県においてもここ2.3年来、著しいものがあるが、二輪免許所有者の年令構成の点からみると（図19）東日本四県において20才以下の若者が二輪免許を取得している率が35%と高いが、愛媛、高知などにおいては20%と低い。大阪では17、18才で取得するものは高知と同じ程度であるが、その後、年をとっても二輪免許を取得しようとする傾向は変わらず、増加傾向が20才台後半まで続く。

東日本では二輪は若者の乗り物としての特性が顕著であるが、大阪では20才台、それ以上の年令層でも、二輪に接していることが理解できる。

図 - 1 3 各府県別にみた車種別構成

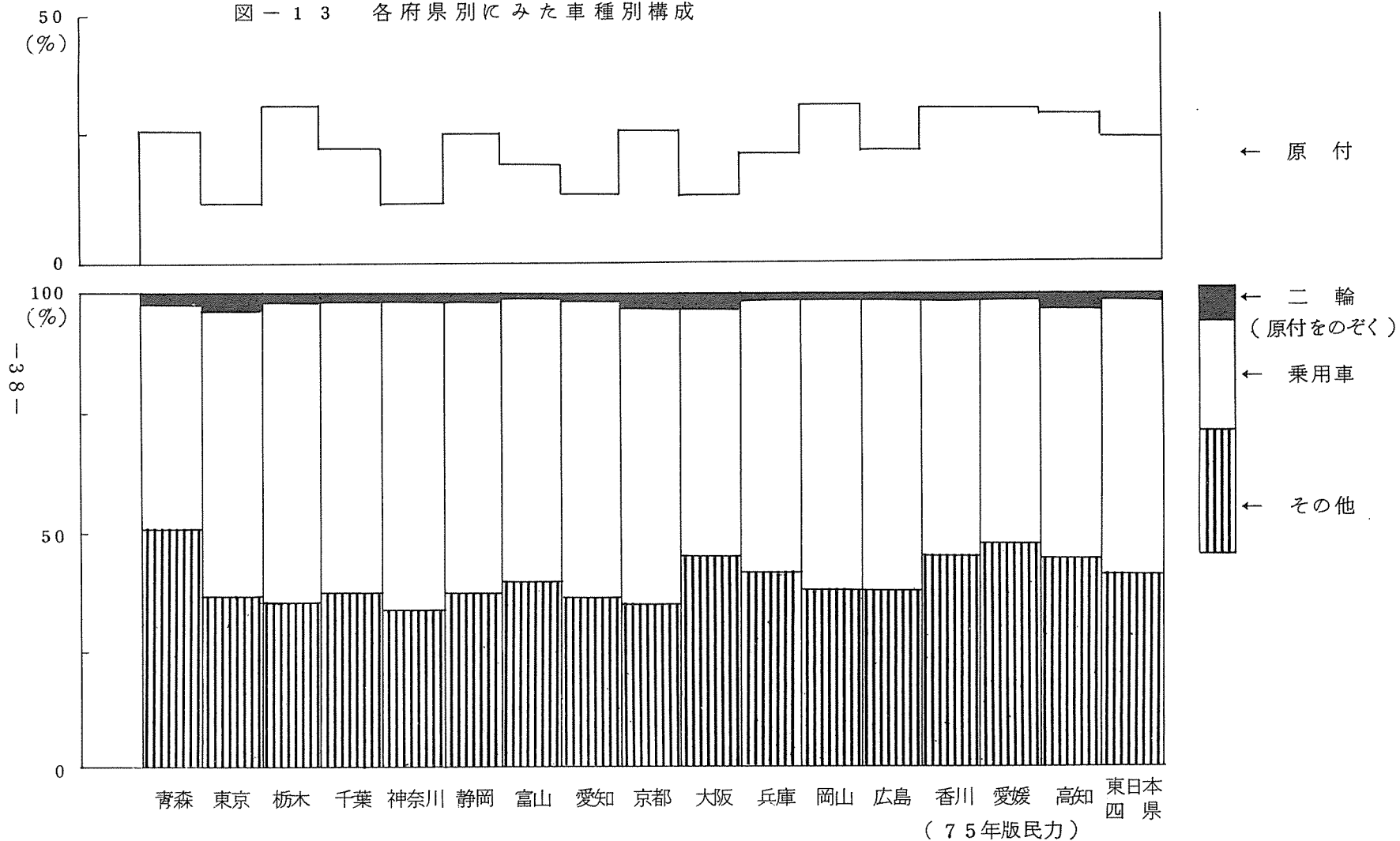
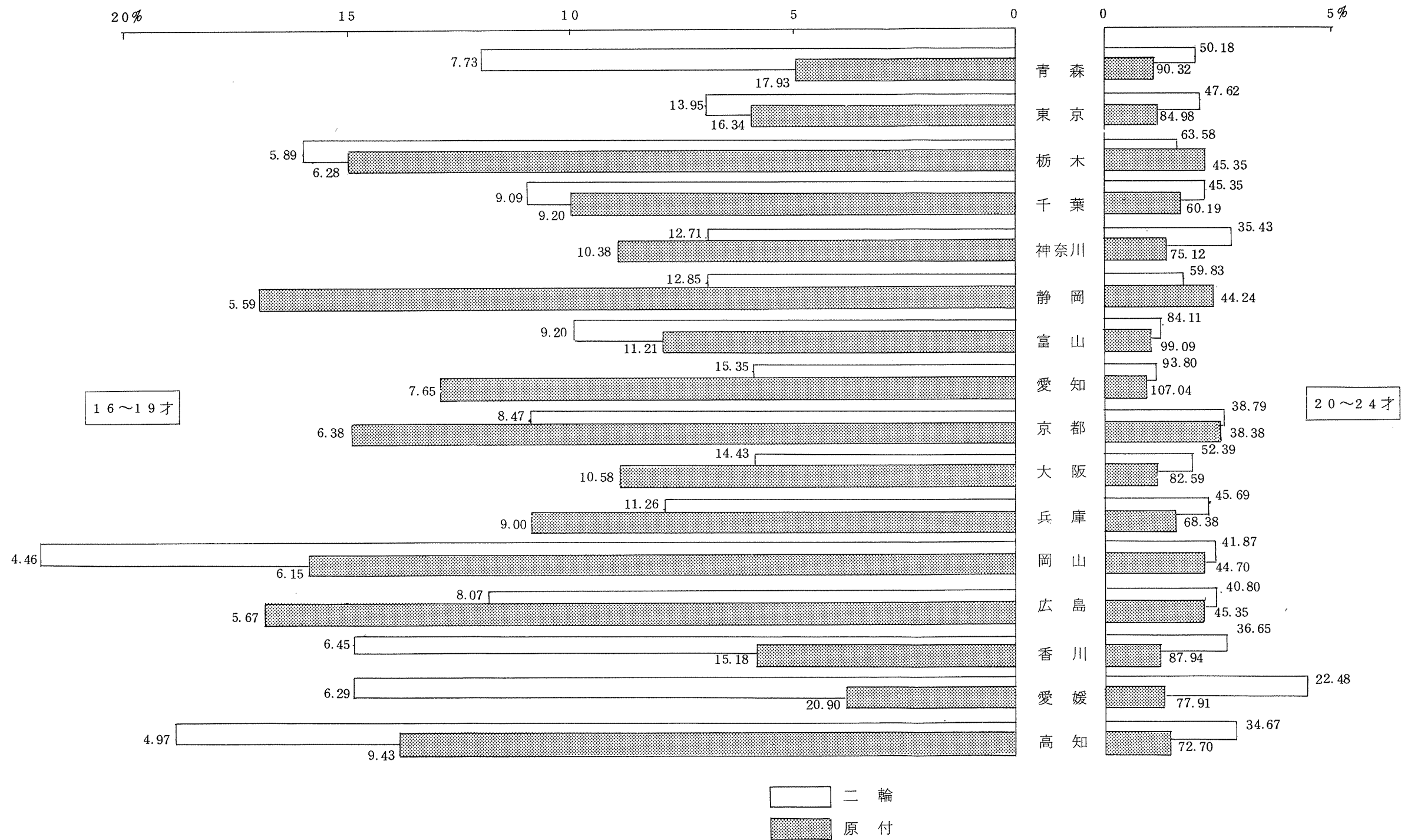
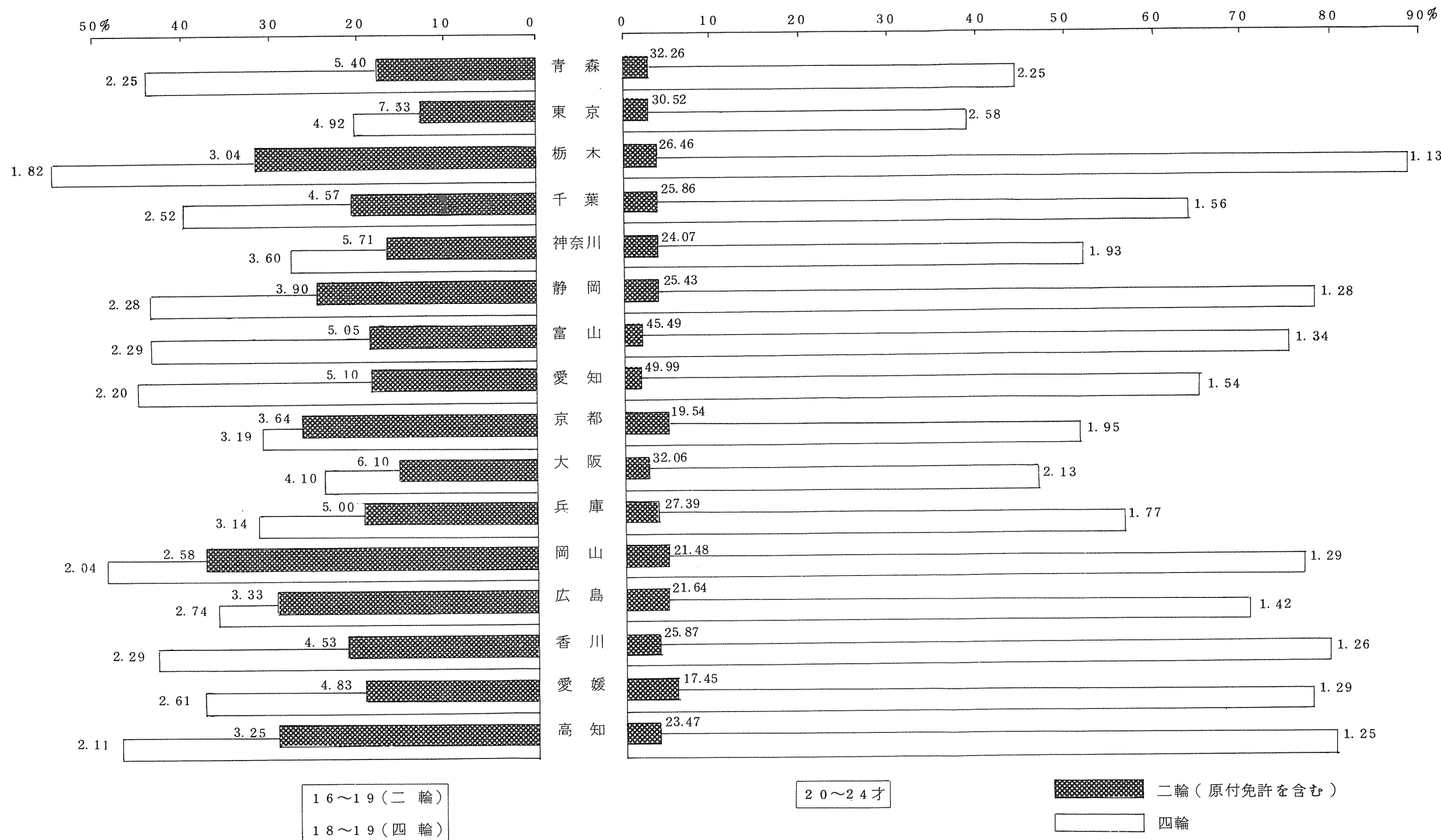


図 - 14 府 県 別 二 輪 原 付 免 許 所 有 率 (昭 和 4 9 年 度)



注) 数字は“〇〇人に1人の割合”を示す。
(警察庁資料・75年版民力)

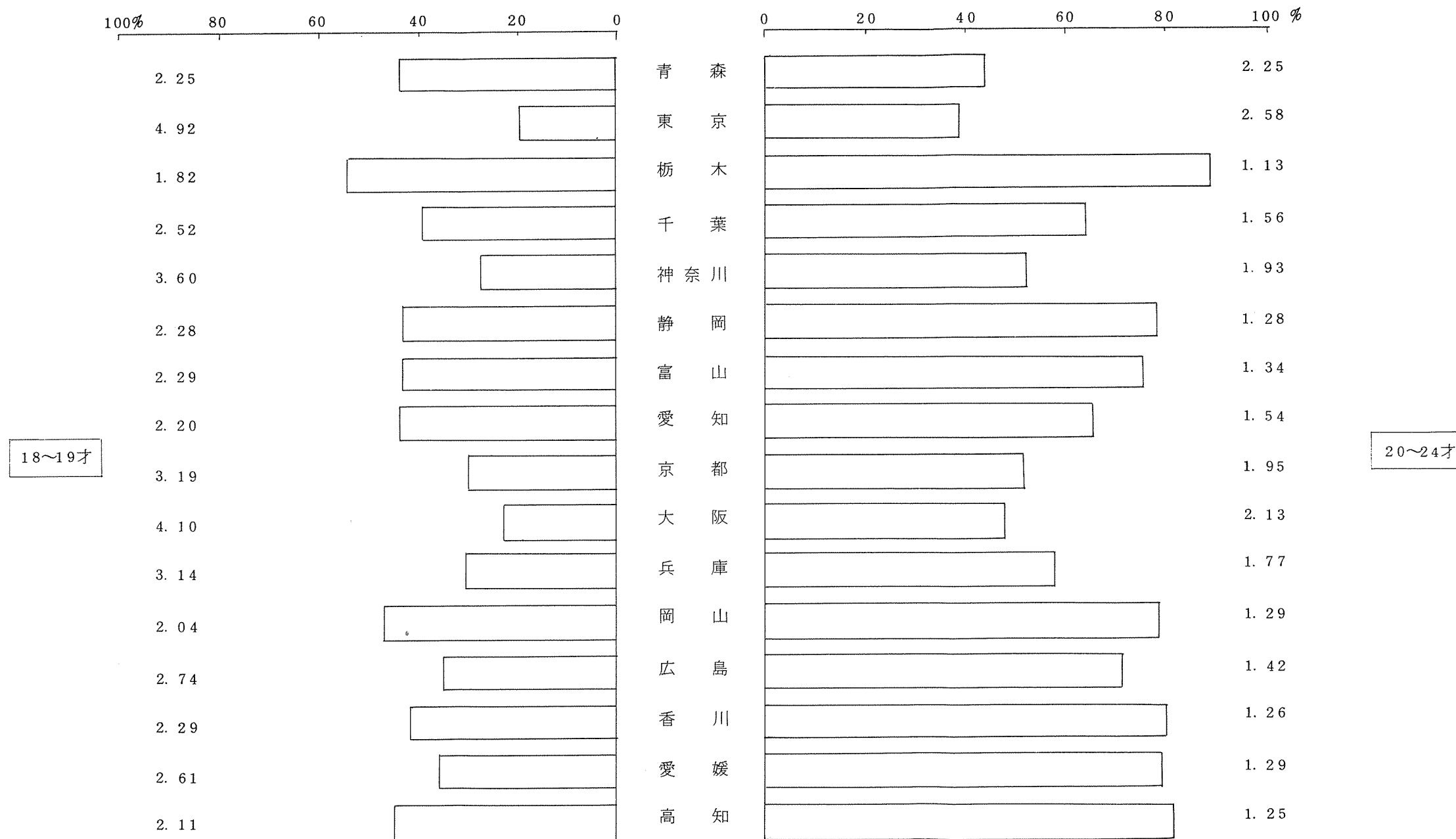
図 - 15 府 県 別 二 輪 四 輪 免 許 所 有 率 (昭 和 4 9 年 度)



注) 数字は“〇〇人に1人の割合”を示す。
(警 察 庁 資 料 ・ 7 5 年 版 民 力)

図 - 1 6

府 県 別 四 輪 免 許 所 有 率 (昭 和 4 9 年 度)



注) 数字は“〇〇人に1人の割合”を示す。
(警察庁資料・75年版民力)

図 - 17 府 県 別 乗 用 車 保 有 台 数

(昭 和 4 9 年) (自 動 車 統 計 月 報 - 運 輸 省 調 べ)

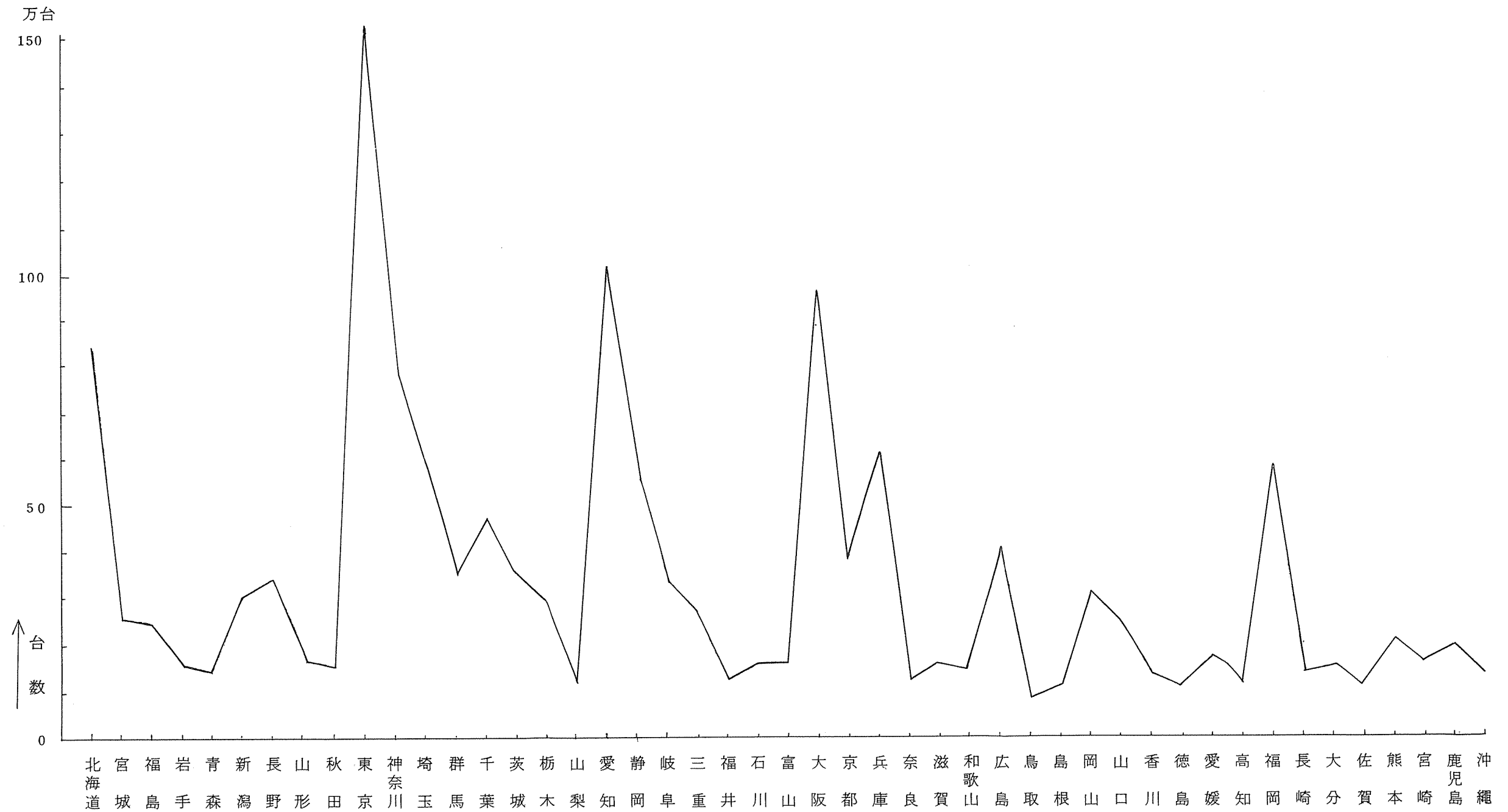
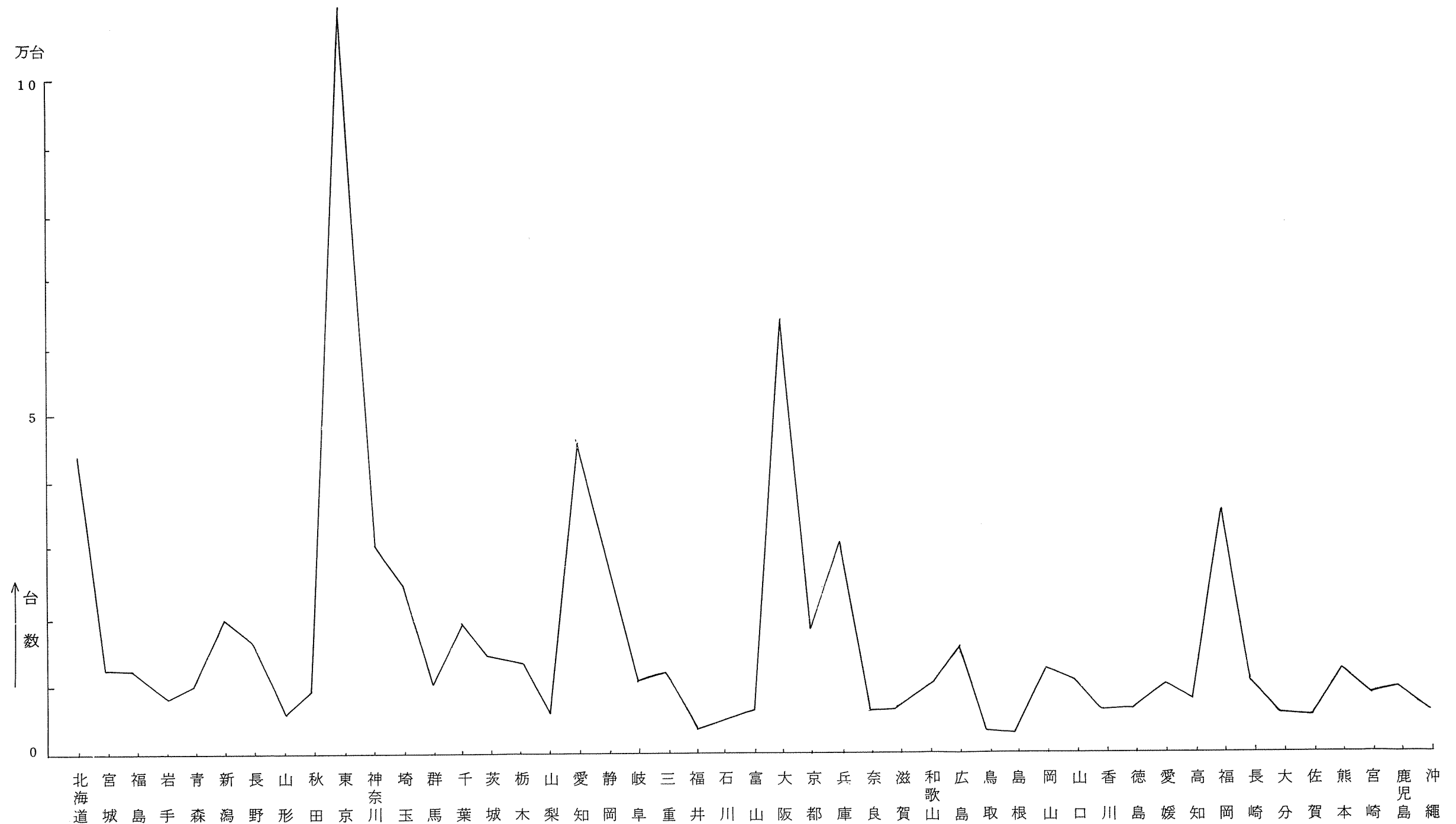
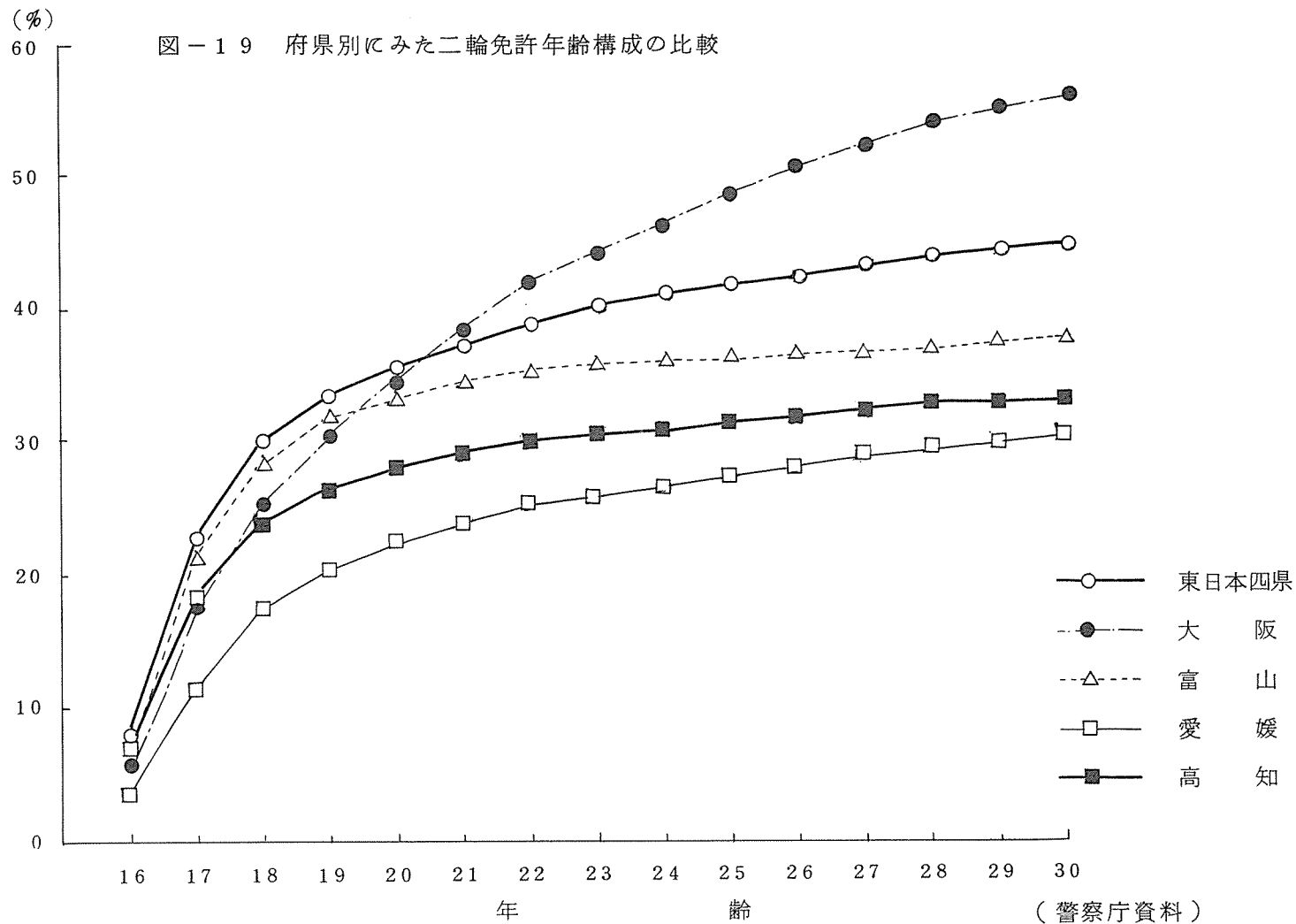


図 - 18 府 県 別 二 輪 車 保 有 台 数

(昭 和 4 9 年) (自 動 車 統 計 月 報 - 運 輸 省 調 べ)

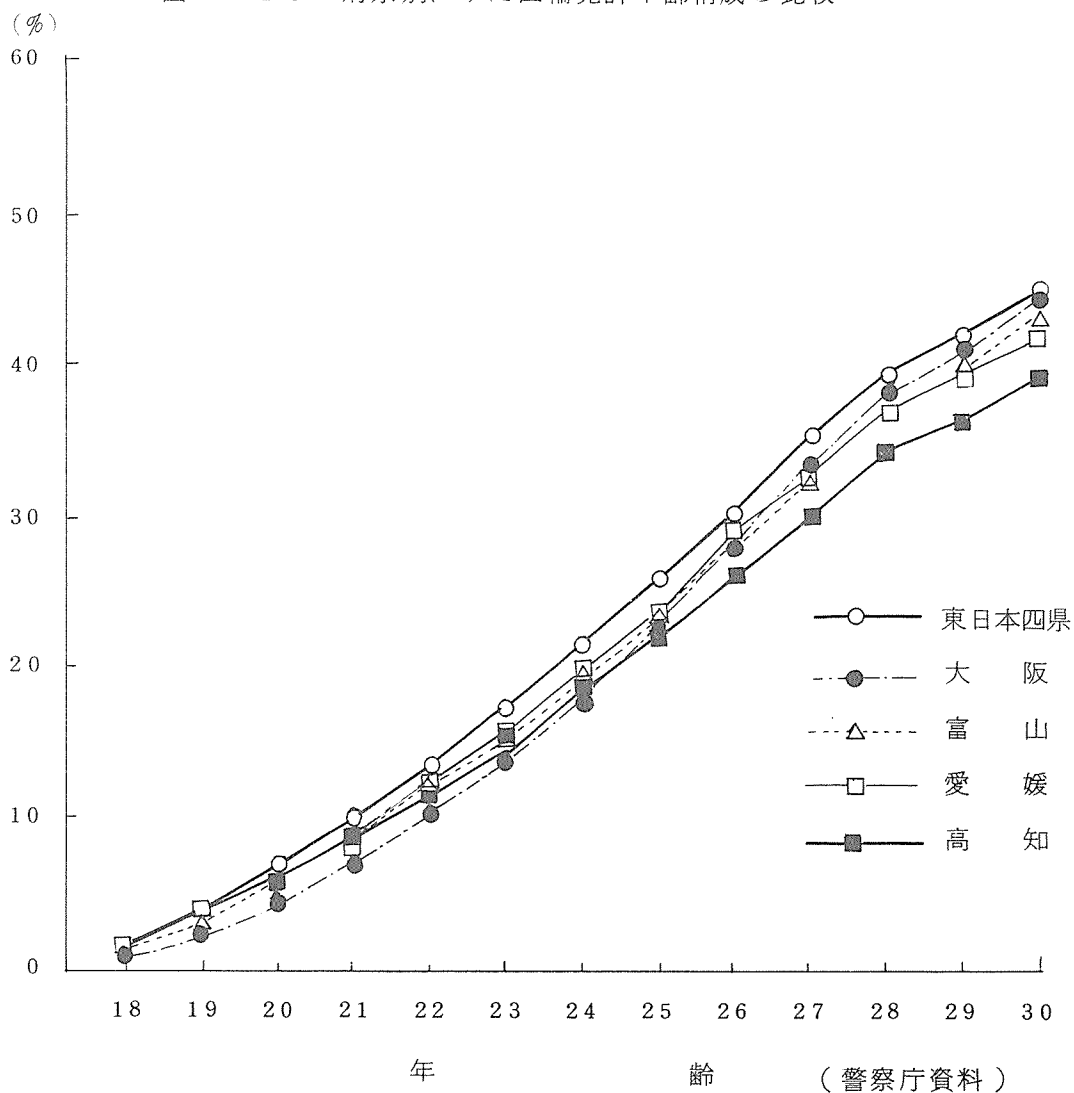




四輪免許年齢構成に関しては図 2 0 で示すが図 1 9 とくらべて各府県は類似した傾向を示していて、二輪免許のとり方の府県別の違いを一層明らかにする。

車が生活の中でどのような意味と役割を果しているかに関して今後検討する必要をこのデータは示している。

図 一 2 0 府県別にみた四輪免許年齢構成の比較



3. 職業からみた暴走族

暴走族の職業を各府県別に見たものが図 2 1 である。職業分類の点で各府県の記述は統一されている訳ではないので、学生、会社員・工員、店員、大工・左官、運転手など共通項をとりだし比較した。西日本各地のデータの間にはそれ程大きな違いがみられないが、西日本と東日本の間には大きな違いがあり、それは高校生の含まれる比率の点である。西日本では最も多い愛知でも高校生の比率が 6.3 % であるに過ぎないのに、東日本では暴走族のうち 30.3 % は高校生である。この事実が東日本では暴走族の主体が二輪車にあることによるのか、教育のあり方（高校生の二輪車に対する基本的な指導方針）（高校生の校外に於ける生徒指導に関する取り組み方など）が違うのか要因を明確にしなければならないが、それは今後の問題である。

いずれの府県においても見られるのが大工・左官がかなりの率で含まれていることであり、さらにまた修理工、ガソリンスタンド店員など自動車関係に従事する職業の人が多いことである。これらの意味するところも今後究明する必要がある。

4. 暴走行為の動機

なぜ彼らは暴走行為を行うのか、そしてなぜ東日本とは異ったパターンをとるのか、西日本においてはなぜ群衆が暴走行為を見ることをよろこび楽しみ、東日本ではそのような傾向を示さないのか。

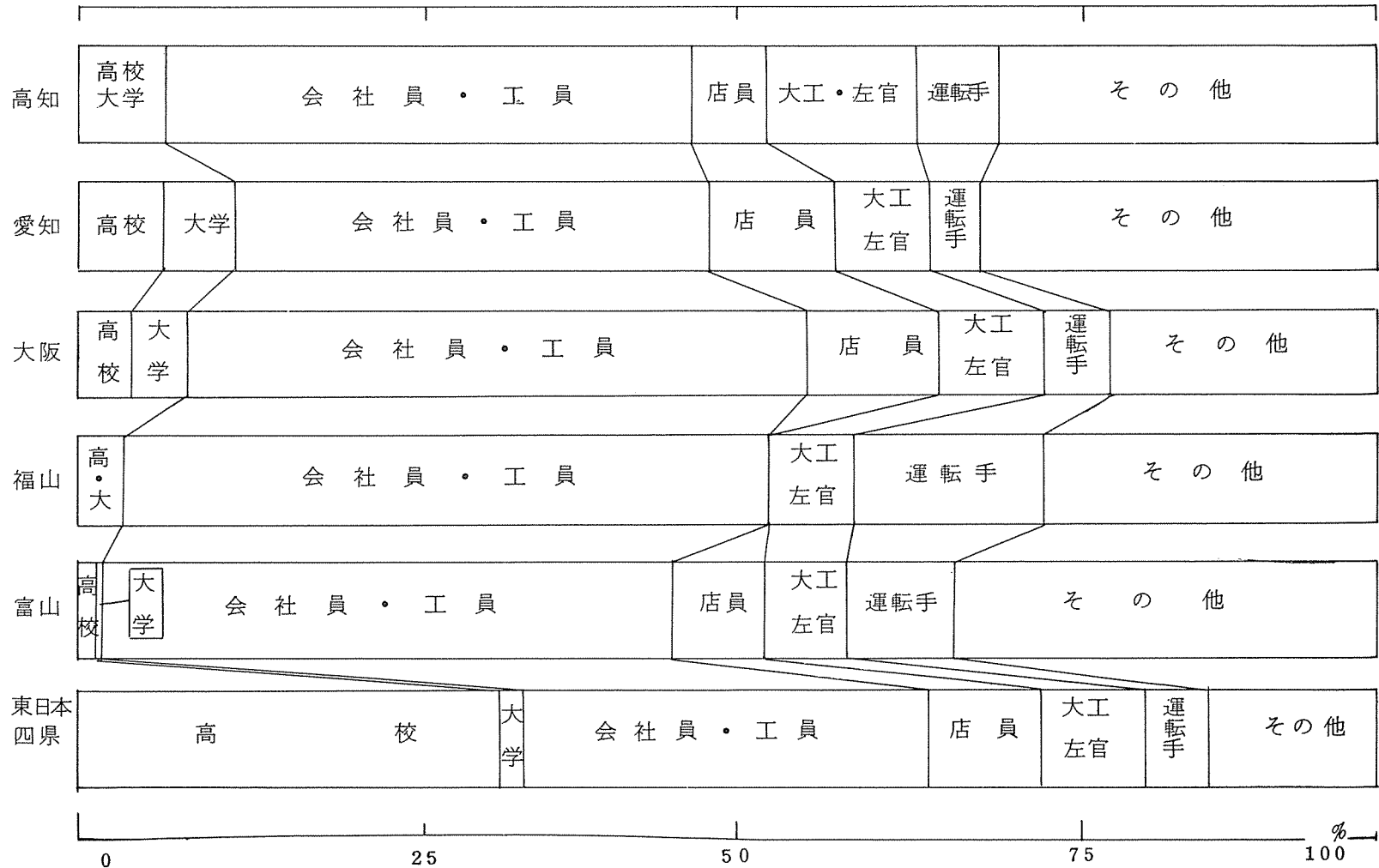
これらの暴走族、野次馬の動機論に関しては今後の研究で解明していくべきであって、今回のプロジェクトではそこまで至っていない。ただ、愛知、福山において暴走の理由について暴走族、および野次馬に対して警察が質問紙法で直接的に質問しているものがあるのでまとめて示しておく（図 2 2）。愛知県警では岡崎事件で逮捕した暴走族と野次馬の両者に暴走の理由を回答させた。暴走族は「かっこがいい」「ストレスを解消する」「制限を破る」がそれぞれ 15 % 以上の選択率を示し、暴走行為の「他人

への誇示」、「欲求不満解消」、「反社会的動機」の三側面を示している。野次馬に暴走の理由を推定させたところ「騒ぎが面白い」、「制限を破る」「若さを示す」などが回答の上位を占め、野次馬の内的心理的特性（騒ぎが面白い、制限を破るなど）を暴走族の示す行為の上に投影してみていることは非常に興味あることだと思われる。

福山における暴走の理由は「群衆から声援され興奮」、「格別の理由や動機なし」、「面白半分、物めずらしさで」などの選択肢に回答が集まっている。ここでは「群衆との関係」が表面に出てきているが、その他は特別に深い意味もなく、悪いとも思わず、変化のない生活にあきて、面白いものがないかと単なる好奇心だけで集まり、暴走した若者の姿を示していることになろうか。

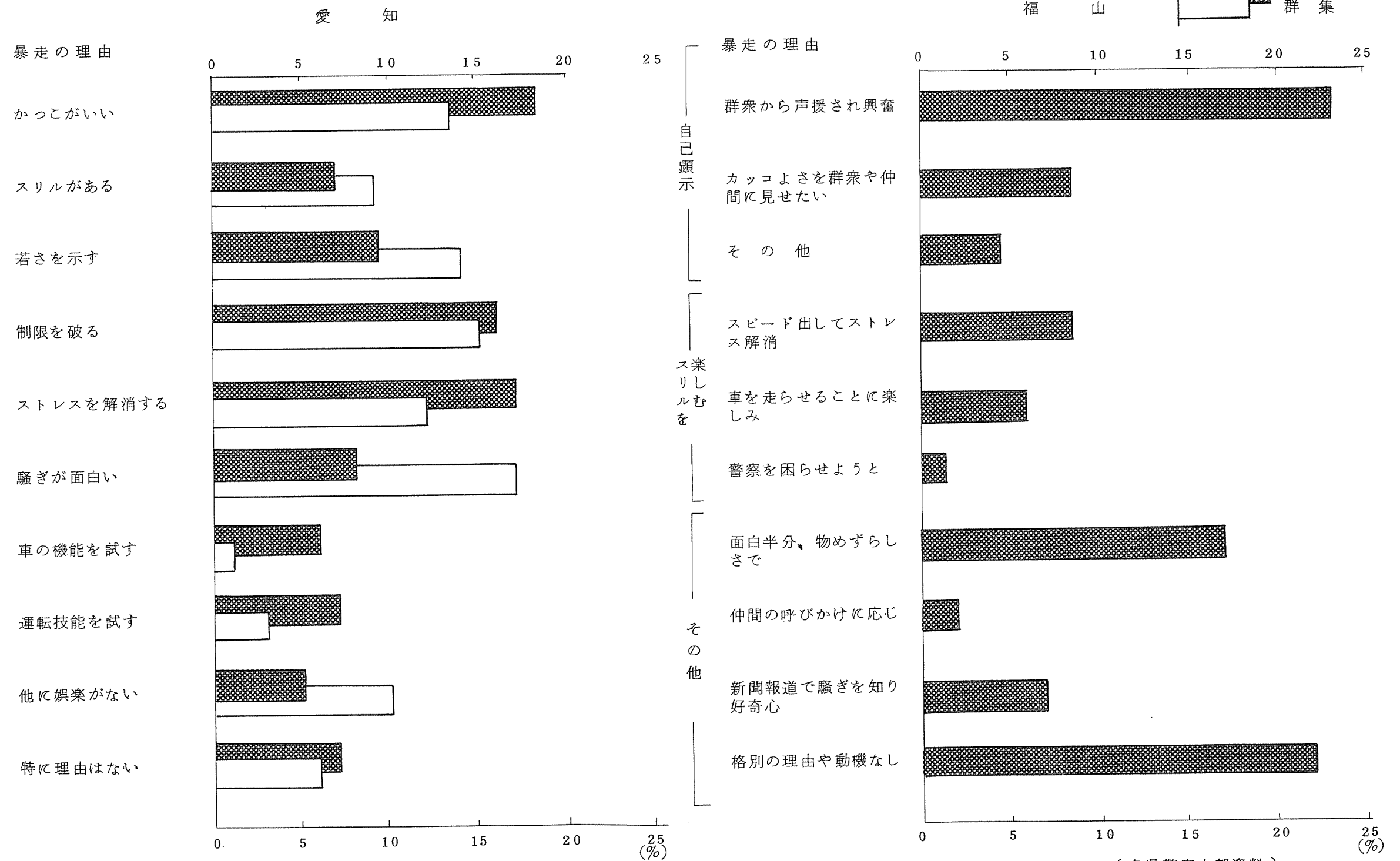
いずれにしても日常性からの脱脚、非日常性の追求が暴走族の動機の背後をなしていると考えられる。

図－２１ 各府県別暴走族職業構成の比較



(警察庁資料)

図－２２ 暴走行為への動機



Ⅲ 暴走族にみられる西日本と東日本の相違

1. 新聞の見出しからみた東・西日本型暴走族の相違

暴走の事実を知る情報源として新聞の報道がある。もちろん、その時点でのいろいろな理由によって（事実がキャッチされていない、興味ある問題事象と判断しなかった、報道することに伴う事件拡大を考慮して等）、新聞が暴走族の行為をすべて報道しているわけではないが、一応の事実を伝えているものとして、見出し部分をまとめたものが表4である。これは西日本型暴走事案のエポックメイキングとなつた富山事件以降、本年八月末までの事件を朝日新聞東京版（縮刷版）からひろい出したものである。

見出しを見ることにより暴走族の東西の違いがイメージとして明瞭に浮かび上る。東日本の記事では暴走族による強盗、暴行、乱闘が目につき、西日本では交通事故、騒動の見出しが目につく。

実際にこれらの記事を分類すると、表5の如くなり、東西の暴走族の問題の所在が一層明らかとなる。

表－4 全国紙（朝日新聞）にみる暴走族に関する記事（東・西日本別）

年月日	東 日 本	段数	年月日	西 日 本	段数	年月日	全 国	段数
4 7. 6. 2 0	カミナリ族補導を強化 社会 警視庁 夢の島にでも行け	2	4 7. 6. 1 9	狂った“街頭レース”富山 総合 深夜、見物人加え暴走 車・商店こわして“略奪” 通行規制の強化に反発？ 群衆に打つ手なし	7			
			4 7. 6. 2 2	暴力団が扇動？“富山の暴走”総合	2			
			4 7. 6. 2 5	暴走族ついに“殺人”富山 総合 自転車ごとにはねる 酔払い運転の男を逮捕	5			
			4 7. 7. 3	暴走族騒ぎ広がる 総合 警官の目の前で爆音 金沢 岡山 群衆千人、路上で放火 連夜の騒ぎ 金沢 尾道で死者二人 オートバイがバスに激突 大学紛争と共通の根 識者の見方	10			
			4 7. 7. 4	暴走レースで事故起せば 総合 参加者全員に責任 6人書類送検 愛知・西尾署	4			
			4 7. 7. 4 (夕)	暴走族社員を処分 富山 会社・労組とも怒る	3			
			4 7. 7. 1 0	暴走族、福山にも飛火 社会 金沢ではヤジ馬が投石	4			
			4 7. 7. 2 4	高知・福山で暴走族騒ぐ 社会	1			
4 7. 8. 3 0	“暴走族”がひったくり 社会 金欠でガソリン買えず 深夜の神宮前	3						
4 7. 9. 1 1	“暴走族” 60人が乱闘 社会 深夜のナワ張り争い 横浜	4						
4 7. 1 1. 2 7	箱根の山に機動山賊団 社会 少年13人が7台襲う 袋だたきにし強奪 警官 9発威 嚇射撃「面白いことを」と集る	7	4 7. 1 1. 2 0	サーキット帰りに暴走 社会 時速百キロ6人“殺す” 岡山 衝突、炎上、当人は無事	8			

年月日	東 日 本	段数	年月日	西 日 本	段数	年月日	全 全 国	段数
4 8. 5. 2 7	オートバイ 8 台追突 社会	5	4 8. 6. 2 5	“サーキット殺人” 社会	2	4 7. 1 2. 2 6	少年犯罪白書 総合	3
4 8. 7. 4	青山通り マニアの少年らが カーグループの 1 9 人を逮捕	2		一宮で群集に突込む			「遊び型」が目立 刑法犯の 7 割は小・中・高校生	
4 8. 7. 1 1	よその会と対立・暴行 都心 警視庁ニコニコ作戦 カミナリ族 安全運転へ“カジ取り”	6						
4 8. 8. 2 4	非行防止も兼ねオートバイ教室 強盗・暴行………したい放題	7						
4 8. 1 0. 2 7	カミナリ族 7 3 人検挙 警視庁 暴走“カミナリ族” 盗み・女性に乱暴 5 8 人検挙	3				4 8. 1 2. 2 7	非行白書 総合	6
4 9. 1. 7	襲った 1 8 人を逮捕 サーキット族乱闘	1					補導少年百人に一人 ことしは一転増勢に	
4 9. 3. 2 5	カーキチグループ 社会	3						
4 9. 5. 1 9	あわや集団決闘 世田谷 高校生ら 2 人逮捕 都内では 2 2 人検挙 社会 厳重検問 富士五湖に集結説	5	4 9. 5. 1 9	サーキット車 大暴走 社会 8 人を死傷さす 泉佐野 運転の大学生を逮捕 群集に突込む	4			
4 9. 6. 2 6	サーキット窃盗団 少年ら 1 4 人逮捕 首都圏などで 5 0 0 件	8						
4 9. 7. 2 7	「一寸法師」 1 0 人を逮捕 暴走族	2				4 9. 8. 4	暴走族 厳戒、また空振り 社会 完全に鳴りをひそめる 暴走族の車、横転炎上 横浜で 4 人死傷	4

年月日	東 日 本	段数	年月日	西 日 本	段数	年月日	全 国	段数
4 9.1 2. 1	深夜の暴走族追放 社会 都心の通行制限始まる	4				49.1 2. 6	今年の青少年白書 「節約」へ生活変えよう 使い捨ての時代は終った 人口・健康・生活 教育・労働 非行	5
4 9.1 2.1 6	“ 集団通り魔 ” 暴走族 富士急ハイランドなどに出没 木刀持ち 3 0 台 4 0 人 次々 車を襲い壊す 横浜では当て逃げ 逃走中乗り捨てバイクも事故	8						
4 9.1 2.2 0	暴走族 「ルート 2 0」 ふだんはまじめな勤労青年 集団、一転荒れる スピードで抑圧発散	6						
5 0. 3.3 1	サーキット族が暴走 社会 二人をはね殺す 国道 2 4 6 号	3						
5 0. 5.1 9	二警官を袋たたき 東京 乱闘で二人大けが 横浜		5 0. 5.1 9	サーキット族 “大暴走” 警官 4 4 人が負傷 神戸まつり、連夜荒れる 群集 6 人をはねる 岡崎	9	5 0. 5.1 9	全国に六百グループ 夏に向けうごめく 一人ずつなら弱い若者たち	
						5 0. 5.2 1	今日の問題 暴走族 評	4
						5 0. 5.2 4	暴走族 集中取り締まり 警察庁	3
5 0. 6. 3	飲酒し 暴走族姿 社会 小女死なせた警官 同僚も一緒、免職	5						
5 0. 6. 9	暴走族 6 0 0 人が大乱闘 鎌倉七里ヶ浜 車 1 8 台メチャメチャ 国道 7 時間通行止め 八王子でも暴れる	8				5 0. 6. 4	暴走族に壊滅作戦 社会 警察庁 連合組織の寸断指示	5

年月日	東 日 本	段数	年月日	西 日 本	段数	年月日	全 国	段数
5 0. 6. 1 3	暴走族 主力は四輪車トランクに 武器 けんかが目的? 封じ込めに警視庁本腰 総合対策本部を設置	5				50. 6. 1 2	暴走族の違反行為に対し 免許停止 3 0 日を加算 暴走族 同乗者も処分	
5 0. 6. 1 5	暴走族の素顔 一人では何もできぬ 群がり、衝動のまま 「目立ちたい」 「モテたい」 けんか自粛を約束 都内のリーダー 6 2 人 警視庁説得で 盗みで 1 0 人を逮捕 暴走族、車や部品専門 神奈川県 津久井署	9				50. 6. 1 4	週末の暴走全国で厳戒 警察庁 今夜、徹夜態勢を指示	8
5 0. 6. 2 0	3 グループ 8 6 人を摘発 暴走族	1				50. 6. 1 6	暴走族の検挙 全国で 2 8 6 人に	1
5 0. 6. 2 2	また暴走族の大群 都下から埼玉県へ 騒音に住民悲鳴	4				50. 6. 2 1	暴走族、今夜は許さぬ 全国で最大規模の警戒	5
5 0. 6. 2 7	リーダーは暴力団員 交番襲撃 暴走族の 3 4 人検挙	4	5 0. 6. 2 9	暴走族? 衝突八人が死傷 愛知県	2			
5 0. 7. 4	中年ライダー意気高し 威風堂々カッコよく 「暴走族扱いは迷惑至極」							
5 0. 7. 2 1	からかわれた右翼 暴走族を殴る 大洗への途中							
5 0. 8. 2 7	暴走族の整備工三人を逮捕 札幌の火災びん事件	2				50. 7. 2 5	「ナナハン」 免許厳しく 暴走族対策の第二弾 警察庁	7

表－５ 新聞見出しの事項別分類

	東 日 本		西 日 本	
	件 数	構成率	件 数	構成率
強 盗 ・ 窃 盗	7	2 1.2 %	0	
暴 行	3	9.1	0	
乱 闘	6	1 8.2	0	
交通事故（死傷）	3	9.1	8	4 4.4
騒 動	0		6	3 3.3
集 結 ・ 移 動	2	6.1	0	
補 導 ・ 指 導 ・ 教 育	3	9.1	0	
逮 捕	4	1 2.1	1	5.6
そ の 他	5	1 5.2	3	1 6.7
計	3 3		1 8	

東日本における暴走族の問題はグループ間抗争を含んだ暴力型事件であり、西日本における問題は群衆暴動型事件の発生と、それともなう群衆の中への暴走車の突込みによる殺傷事故の発生である。

2. 東・西日本型暴走族の諸特性の比較

新聞では知り得ない各地の暴走族の実態を本プロジェクトチームでは各地の警察担当官に直接面接し、そこから情報を得てさらには微妙なニュアンスとして把握してきたが、それを各特性別に一覧表にしたものが表 6 である。東日本の代表として四県を示し、西日本との比較に供した。

上段に 21 のカテゴリーを示し、各カテゴリーについて 2～4 のアイテムで各地の特性を示している。東・西暴走族に顕著な差がありと認められた特性については最下段に※印で示した。

西日本では四輪車が中心であり、暴走車両もあまり多くなく、集まったメンバー間には強い連携もないし、グループ規模は東日本に比べ一般に小さく、参加するグループ数も少ない。(表 7)

前述したごとく高校生の参加の点では東西に大きな違いがある。群衆の存在にも本質的な違いがあり、暴走行為を行う場所の点では西日本が特定の道路での反復してのサーキット行為であるのに対し、東日本では遠距離のツーリングをグループで試み、その間での暴走行為であるなどここにも根本的な相違がみられる。

暴走行為の違い、群衆参加の違いにともない周辺条件、爆竹等の使用の点、そして新聞記事に見られたように、暴走族がひきおこしてくる諸問題も異ってくる。

高校生、二輪車、ツーリング、サーキット、群衆、地形的条件、鳴り物使用などのグループのあり方等のこれら諸特性は相互に関連するものであり、どれがどれの原因となりどれの結果となっているか、あるいはどれが原因関係の中でより深いレベルの普遍的要因となっているかなど、諸特性間のヒエラルキカルな関連性については明らかではない。これも今後の重要な研究テーマである。

表－6 各地別にみた暴走族特性の比較

		発生期間		発生日		車両タイプ	暴走車数	参加メンバー	規模グループ	女性参加	中心年齢層	30代以上	の参加	発生時	生の参加	職業	活住	群衆の存在	暴走場所	(1)			(2)		(3)			周辺条件			爆竹等の使用	暴走にともなう事件																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
		長期	短期	土・日曜日	非特定															四輪中心	二輪中心	混合	多い	少ない	大	小	あり	なしもしくは若年者	その他	あり		なしもしくは高校生	会社員・学生	その他	地元	遠方	あり	なし	広直カ	都市内	周辺部	特定場所	非特定	夜市・祭	劇場・盛場	モーターなど	なし	あり	なし	交通事故	投石・暴行	窃盗	グループ抗争																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
富山			○	○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○	

表一 7 東・西日本型暴走族相違点

特 徴	東 日 本 型	西 日 本 型
グループ規模	大きい (連合化)	小さい
グループ結束	強 い	弱 い
年 令	若 い	高いものもいる
高 校 生	多 い	少ない
参 加 車 両	二輪混合	四輪主体
暴走のタイプ	遠距離 touring	特定場所での circuit
抗 争	多 い	少ない
スプレーによる落書	あ り	な し
群 衆	な し	あ り
爆 竹 等	な し	あ り
祭・夜市との関係	な し	あ り
警察との関係	親警察的	反警察的

表一 8 暴走行為成立要素

(1) 群衆まきこむ要素	①都心・さかり場・若者い集する地域
	②暴走族がい集しやすい場所
	③祭・もよおし物で観客の集る場所
(2) 地 形 的 要 素	①カーブー S 形カーブ・ R の小さい
	②直線道路ー多車線 (3 車線以上)
	③大交差点 ー ロータリー
(3) 暴走地としての経験要素	小規模暴走の傾向が それまでにある 昨年発生・本年も発生
(4) 時 期 的 要 素	休日の前日ー有職少年の多いことに関係

西日本における暴走行為の成立要素を考えるにあたって、大阪府警交通指導課地家警部が示した次の四つの要素は非常に適切である。大阪府下における暴走行為の発生場所は図 2-3 に示されたごとく 8ヶ所あり（現在ではことごとく対策が立てられ終結状態にあるが）、8ヶ所はそれぞれ異った特徴をもつがそれらの間に見られる共通点をうまくとらえまとめたものである。

暴走行為の成立要素

- (1) 群集をまき込む要素
- (2) 地形的要素
- (3) 暴走地としての経験要素
- (4) 時期的要素

図－２３ 大阪府下における
主たる暴走地

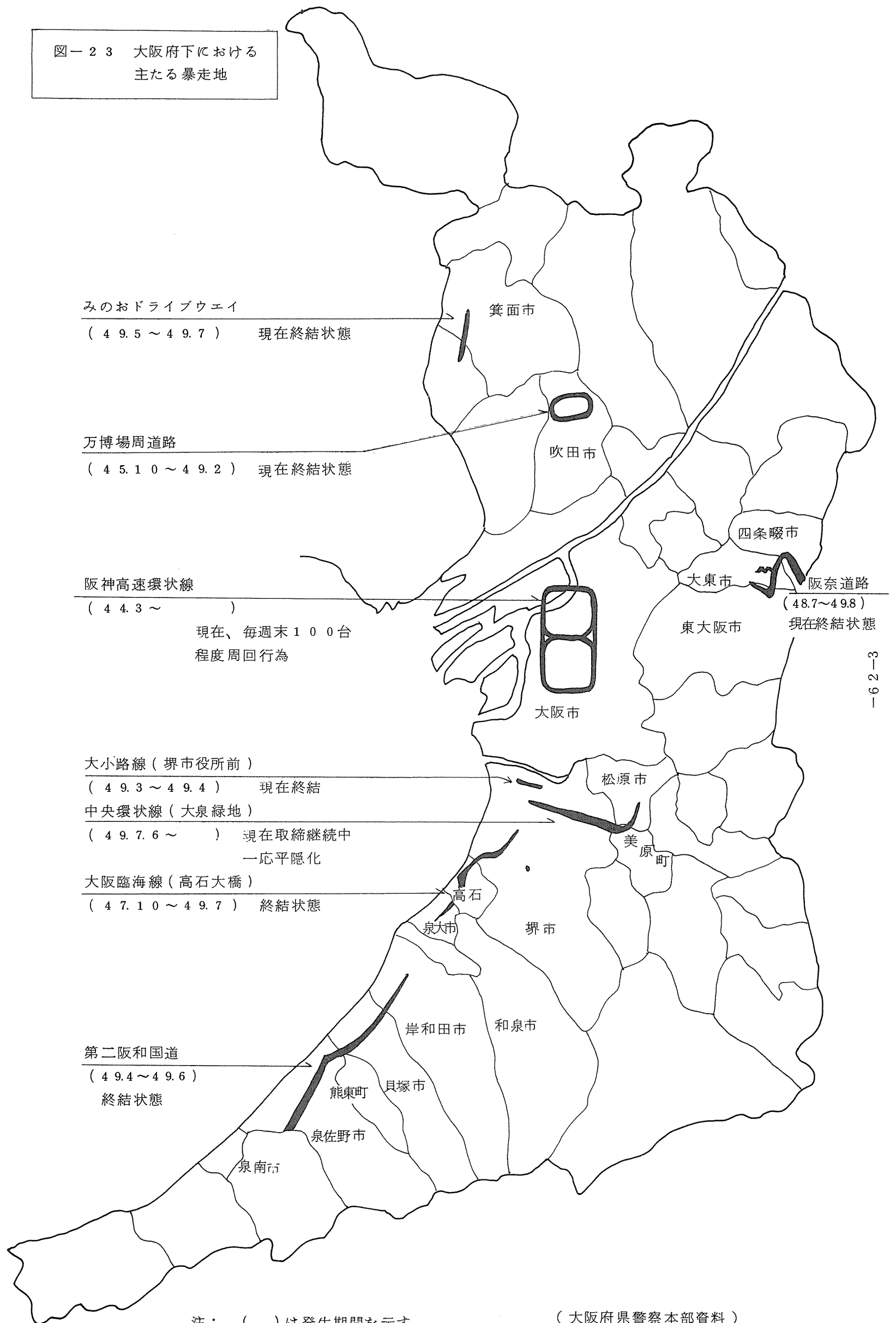


表 8 に示されるように、西日本型の最大の特徴第一は群衆をまきこむものであるが、それには 3 つのパターンがある。その 1 は都心、さかり場など若者がい集する地域である。大阪では高島屋前、戒橋を中心とする地域での暴走事件であり、富山、高知の事件がこれにあたる。その 2 は都心から離れていても暴走族がい集しやすい場所があることであって、車を駐車できる空き地、ドライブイン、パチンコ屋、スーパーなどの大駐車場のある場所がこれに当る。大阪では万博場周道路、臨海道路、中央環状線大泉緑地、第二阪奈国道などがこれにあたるし、愛知県岡崎がこれの典型例である。その 3 の祭・もよおし物で観客の集まる場所を狙って暴走族が集まる例は、神戸まつりでみられたが、それ以外に津山、福山、今治、新居浜、松山など主として地方都市で現われるパターンである。

西日本型暴走行為が行われるための第二には地形が重要な要素としての意味をもってくる。その 1 は R が 90~100 と小さいカーブや同様の S 字形カーブが暴走族の恰好の暴走地となり、キー音を発して楽しみ興奮を高める。阪神高速道路、高石臨海線がそうであり、各地にこの例は見られる。

その 2 には三車線以上の直線道路が必要である。二車線以下の道路は暴走行為には不適切なようである。その 3 には大交差点あるいはロータリーも好んで用いられるが、これはその 1 の R の小さいカーブと共通点をもつし、多車線と大交差点、ロータリーの組合せが暴走族に恰好の遊び場を提供している。

第三としては暴走地としての経験要素も重要である。前述した如く、ある日突然暴走族がそこに出現して大きな暴走事件となることはなく、自然発生的に小人数のグループがそこにいつとなく集まり、仲間が仲間を呼んで常習的な暴走地となっていく。

第四の時期的要素は、休日の前日という特定の日が選ばれるが、これは有職少年の多いことと関連があるだろうし、一般の車が少なくなりやすいこととも関係するだろう。季節的には以前は暖かくなってからが暴走族の季

節であったが、最近では時を選ばないようになり、冬期にも出沒するようになった。

以上暴走行為成立要素をふまえて考えると、西日本型暴走事件はどこで発生するか、どこが危険箇所であるかの予測が可能であり、さらには大事件になる前、小事件のうちに発生をくいとめることが可能であるといえる。

各地の暴走行為を西日本型と一括して名づけてしまっているが、群衆をまきこむサーキット型とは異り、東日本型に部分的に近似した暴走行為のタイプも西日本各地には見られる。

今日の京都における暴走族は西日本型のサーキットタイプとは異り、ツーリングを楽しむ型だといわれている。西日本型暴走族の発生地としての宝ヶ池をもちながら、そこをしめ出されてから今日では京都市内、市外にはサーキット行為を行う諸条件を満たす場所がなく、他県へのツーリングが主体となっている。その目的地として、琵琶湖周辺が選ばれるが、その背景には次のような要素がかくされている。

- (1) 往路と復路で違ったルートがとれ、回遊が可能であると共に、ルート選択にバラエティをもたせることができおもしろみがある。（京都市一滋賀県のルートとしては5ルートがある）
- (2) 目的地である琵琶湖には休憩地として最適の水辺があり、しかもどこでも手軽に休憩が出来る状態にある。

兵庫県六甲山、岡山県鷺羽山は両者共通した特性をもっている。二輪車を中心として若者の暴走族が、急勾配、急カーブで自分の腕を競い合い、自己の技に陶酔的に満足を得る場所のようである。そこには観客は集まらないが、常時若者の自分に対する挑戦の姿が展開されている。

最後にいま一度東西暴走族の相違点を明示しておこう。表7に示した諸点に東・西の相違点が明確に見られた。

Ⅳ 暴走族をどう捉えるか

－前期調査（西日本）からの理解－

☆鈴 村 試 案

西日本型は、日本の伝統ともいえるその町、あるグループの代表者達の青年団のお祭りを感じる。群衆たちも、やりたいがやれない代表者への期待の発展としての行為と考えられる。従って道交法違反は起こしているが、東日本型にみられる窃盗といった犯罪は起こしていない。（図－24）

東日本型は、組合活動的なものを感じる。ここでいう組合的集団とは、大グループの組織化された組合ではなく、組合的な集団で、まだ完成されていない組合のイメージである。（図－25）

ここで、東日本型の場合なぜ抗争事案が起るか考えてみる。対立抗争はグループがあるから起こるのではなく、グループを構成しているひとりひとりの潜在的な何かの背景があるから起こすのではないだろうか。しかも、昔よくあった町同士の青年団のケンカや学校同士のケンカといった競争的な、グループの対抗意識でなく、不満分子の人たちだけの集まりが起こす抗争と考える。何故なら、健全なツーリンググループ同士がぶつかっても対立抗争は起こさないし、トヨタとニッサンのツーリンググループがぶつかってもケンカはしないはずだ。ここでは、グループをつくるから抗争を起こすというのではなく、それを織りなすひとりひとりの不満となっているものが問題である。

そのひとつに都市の流入人口の問題があると思う。その土地の1世、2世を問わず、自分たちのネグラとする生活の基盤がない。1世であっても、経済的なものだけでなく、さまざまな不安定要素があって、不安のままの状況で生活をしている。長年土着している人々は、古くから家があり、となりに誰が住んでいるか知らないといったこともない。流入の人々は、いわゆる生活の根が下りていない浮き草的存在であって、これが日常の生活の不安と不満を醸しだし

ている。このようなことは、日本人の特徴ともいえる。

例えば、サラリーマンも、終身雇用性だと批判されるが、これは日本人の求めている姿ではないだろうか。日本人は自分自身の力で自由に生きていけるという自生的人間ではない。それは長い間日本人の形成を左右してきた封建主義の中で培ってきたことであり、それを一夜にして覆すことはできない。資本主義社会の中で、欧米などは能力主義である。このようなものに対して日本人は本来訓めない風土であろう。終身雇用性が問題だというのはおかしいのではないか。逆に、このような社会環境のもとで日本人本来の実力がだせるし、だせてきたはずである。

違うことばで言えば、本来農耕民族である日本人に向かって、「遊牧民になれ」ということであり、所詮無理なことであろう。

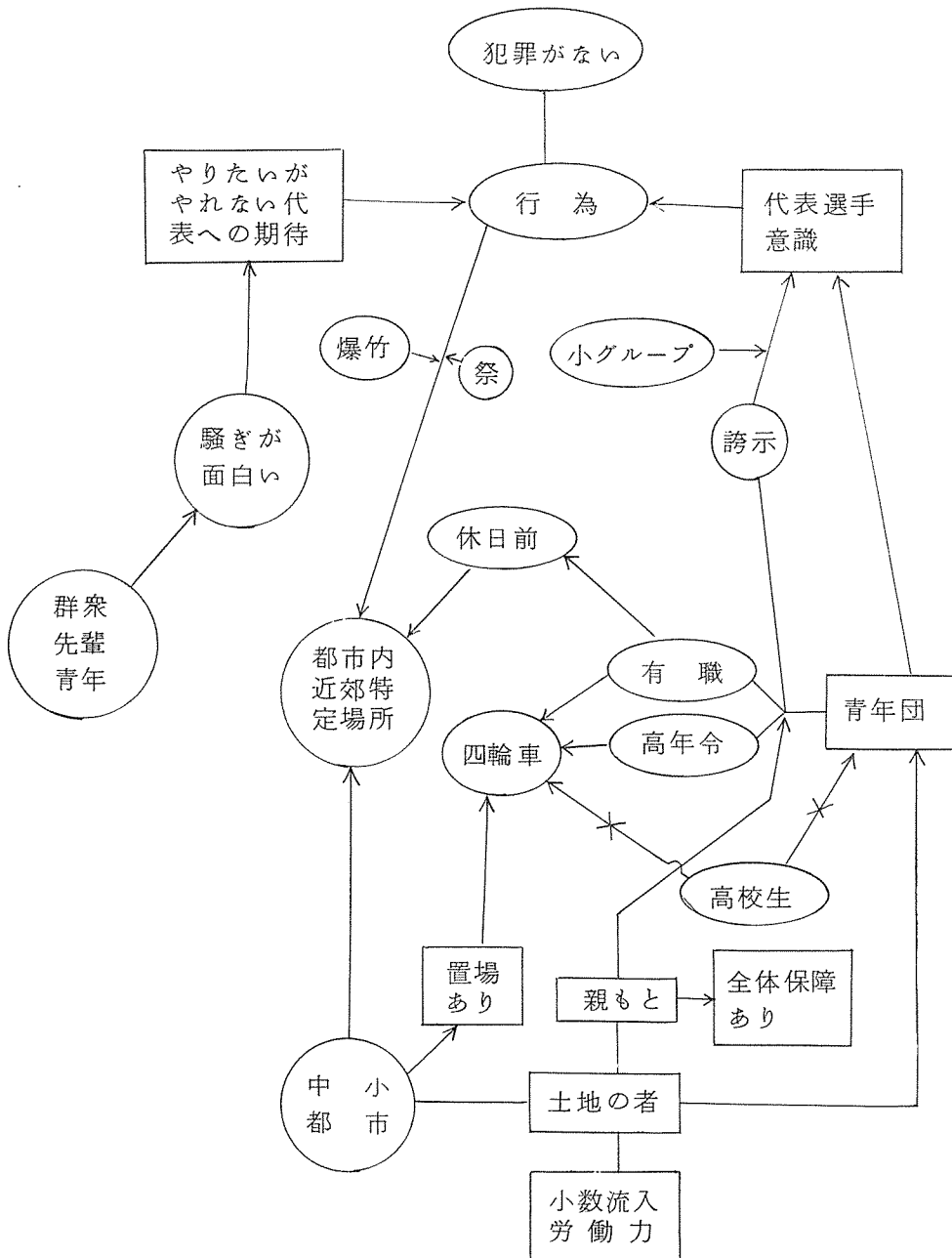
日本人のとくに都市に住む若者の感覚の中には、少なからず現在の社会に対してある種の民族的抵抗があり生活に不安や不満が生まれる。そして自分たちの意識には上っていないが、ひるがえって考えてみると、なんとなく空洞があるのではないか。この若者たちの行為に対して異常だと決めつけるのではなくて、日本の民族性の特質を考慮に入れた規制とでもいえる何かを探し出すことが重要ではないか。

西日本型の多くは日本人ドライバー一般の行動であり、次の時代の主流ドライバーとなると思われる。

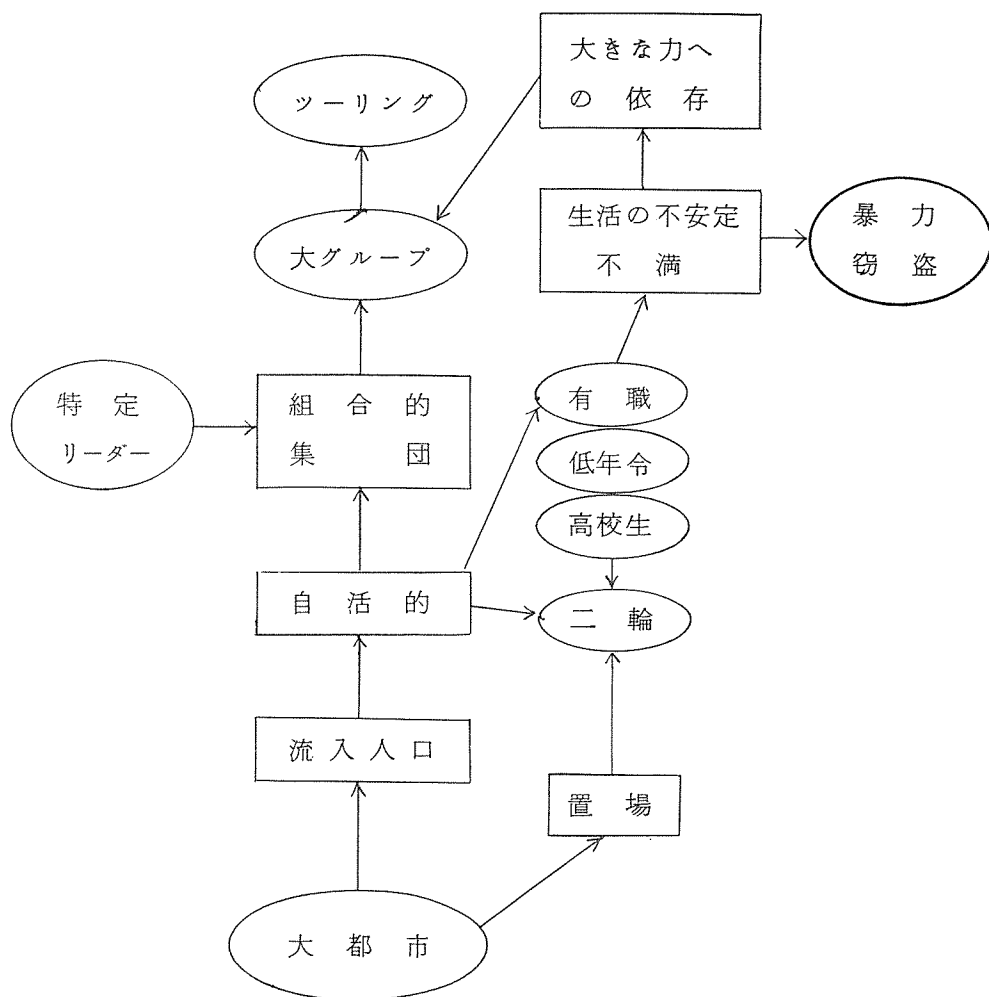
図-24 西日本型暴走族の要約

凡例 : 推定

○：調査結果



図－２５ 東日本型暴走族の要約



☆長 山 試 案

西日本型暴走族問題は、少数の暴走族がひきおこす行為と多人数の野次馬的群衆がひきおこす行為、そして両者の相互作用、さらには警察の制止にエキサイトした群衆と暴走族がひきおこしてくる暴動的騒動という点に特徴がある。

ここでは、暴走行為と野次馬行為の背景にある諸要因の関連を図式で示してみた。(図-26)

暴走行為の問題は左半分に示しているが、ここでは主として個人を中心にして、暴走行為をひきおこすまでの諸要因、諸条件を考えている。クルマに対する強い欲求をもつ者がいる。このような人は、クルマを求めて接近を試みる。人間の欲求は必ず対象との関係で生ずるもので、対象が出現し、それが刺激となって欲求がかき立てられる。クルマへの欲求を強くもつ人は、クルマを求めては接近するし、また誘因としてのクルマから刺激を受けた人もクルマ欲求が強められクルマに接近し、購入する。

個人にとっての誘因は、マスコミ媒体を通してのクルマの宣伝・広告により与えられるのであろうし、魅力的なクルマの存在、宣伝・広告は日本の経済構造から強く規定されているところである。日本経済の高まりは、個人の所得水準の向上につながり、ますますクルマへの接近・購入を容易にした。

クルマへの欲求を規定する要因としては、個人の興味、動機体系などのパーソナリティ特性もあるが、家庭環境、父母のクルマに対する考え方、友人関係などが大きな要因となってくる。これらはまた、クルマへの接近・購入の重要な契機となってくるが、特に友人たちとの交流は、クルマの使い方、乗り方の重要な規定要因となってくる。若者においては、クルマは一人で購入して、一人で乗るという形をとるよりも、友人が買ったから自分も買う、一人でドライブするよりも友人をさそってドライブする、友人の運転の仕方と共通した運転様式を身につけていくなど、仲間との関係が接近に出てくる性質のものである。遊びとしてのクルマの乗り方の点では特にそうである。

クルマを中心として何人かの仲間関係が形成され、遊びとしてのクルマの乗り方をともに誇示しあうようになると、必然的に暴走行為的運転が展開していく。

広い幅員の道路整備が進んだことにより、サーキット的運転が可能となった。一般社会のドライバーの運転様式の中にスピード、追越し、信号無視など暴走の運転行為があることによって、若者たちが自分たちの暴走行為は当然のことと思ってくることが見のがせない。

暴走族に関するマスコミ報道が暴走行為に刺激を与える。クルマへの欲求以外に欲求充足方法を知らない若者が、自己抑制もきかないままに、スリル・冒険などの感情的満足を求めて暴走行為を行っている。

誰れでもが暴走行為を行うわけではなく、クルマへの特に強い欲求・関心をもち遊びとしての（友人関係の点からも）クルマの乗り方に強い満足を求める若者が、暴走行為を示してくるといえる。

暴走行為はこれだけで成立しているのではなく、西日本型ではこのほかに野次馬の存在と深いかわりをもっている。暴走族は野次馬がくることによって一層エキサイトし、顕示欲を満足させている。

図の右半分に野次馬行為の背景を示した。

野次馬はなぜ集まるのだろうか。

これは祭的特性を強くもったものと考えられる。今日の社会は変化の少い平穏な生活を可能にしているわけであり、緊張に満ちたものではない。毎日が同じようなリズムで進み、節がなくなり数十年前までは行われていた社会の種々な行事は消滅してしまっている。一年中何の変りばえもしない日常生活が流れているに過ぎない。だが、これまでの社会に幾多の行事が存在していたことから考えると、日常性を離れた非日常的な何か（正月、節句、夏祭、秋祭等々）、非日常的なるが由に心理的に緊張した事態が人間にとっては必要なのではなかろうか。何かがおこり心理的緊張感が得られることへの一般群衆の期待が野次馬の行為の中に感じられる。

暴走行為が行われ人が多く集まっていることを知ると、このような何かを期待する人がますます集ってくる。

このような群衆が多人数集まることによって、群衆心理が生まれ、匿名性にかくれて、無責任な行為が現出する。また、一方社会にはこのような行為に対して容認する風土があり、反権力的・反警察的風土がある。

これらの現象の背後には、社会基盤の持つ意味も無視し得ない。クルマ社会のあり方が暴走問題に反映している。公共の道路上での私的欲求の満足が容認されている社会である。

行動規範としての道交法と一般ドライバーが作り出す行動規範のずれ、規範の二重性という所にも暴走族を生み出す前に、急激なクルマの氾濫をもたらした。情報の氾濫はクルマへの過度の欲求を作りだし、暴走への条件を形成する役割りをなしている。

自己の欲求充足のみを最大の価値とする自己中心的な考えが充満する社会においては、他人の生活、他人の迷惑を配慮する風潮は消えてしまった。

等質化された生活の中で、非日常的事象が減少してしまった社会に暴走族的行為、野次馬的行為がひとつの非日常性をもたらした。

反権力的発想が、今日の特徴となり、暴走的行為を増長していることも見のがせない点である。

東日本型については、西日本型と顕著な差の生ずる点を次のように考えることができるのではなかろうか。(図-27)

暴走族がグループ化されてくる由縁、ツーリングを主体にする由縁は、一般ドライバーや住民から非常に冷たい眼を向けられるところにあるのではなかろうか。それによって、少人数ではなく仲間の数を増やし、力を強化する必要がでてくる。またそこには仲間意識が発達する。ひとり、ひとりでは弱い存在であり、自信のなさ、劣等感をもった存在であることが仲間を必要としてくる。冷たい周囲の眼は、一定の箇所でのサーキット的暴走行為を行いくいものに

し、ツーリングによって満足を得るようにするだろう。いろいろなコースがとれるという地理的条件も東日本の場合ツーリングへの傾向を高めるのかも知れない。

ツーリングをやれば、目的地や途中で同じような暴走族集団があれば、ちょっとしたキッカケで対立抗争がおこってくるだろう。対立抗争がおこれば一層グループを大きくして自分たちの力を強大なものにしようとする傾向が生まれ、連合化へと進展することになるだろう。関東に歴史的にみられるヤクザ的精神風土も無視できないものかも知れない。

図-26 西日本型暴走族の問題要因系統図

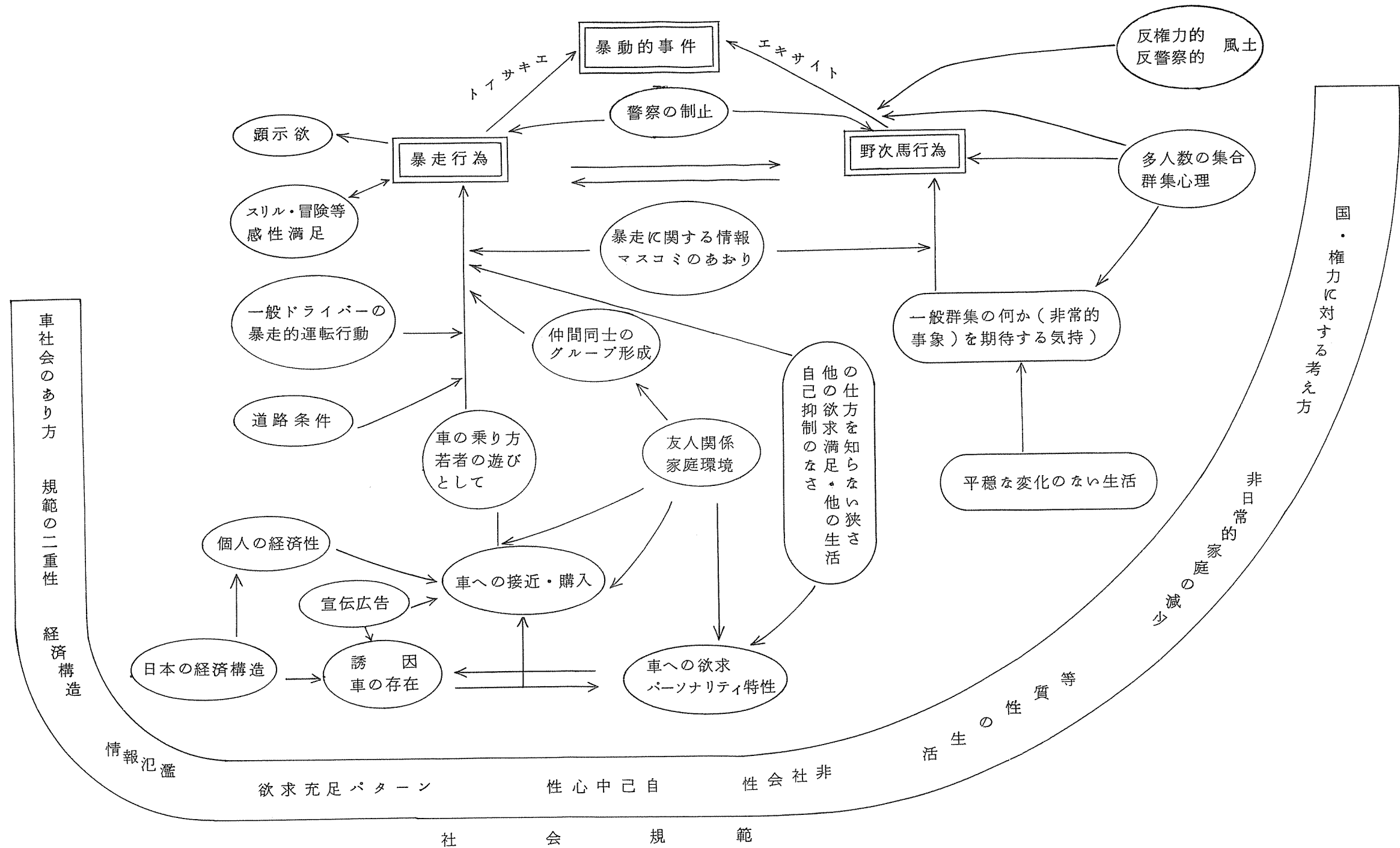
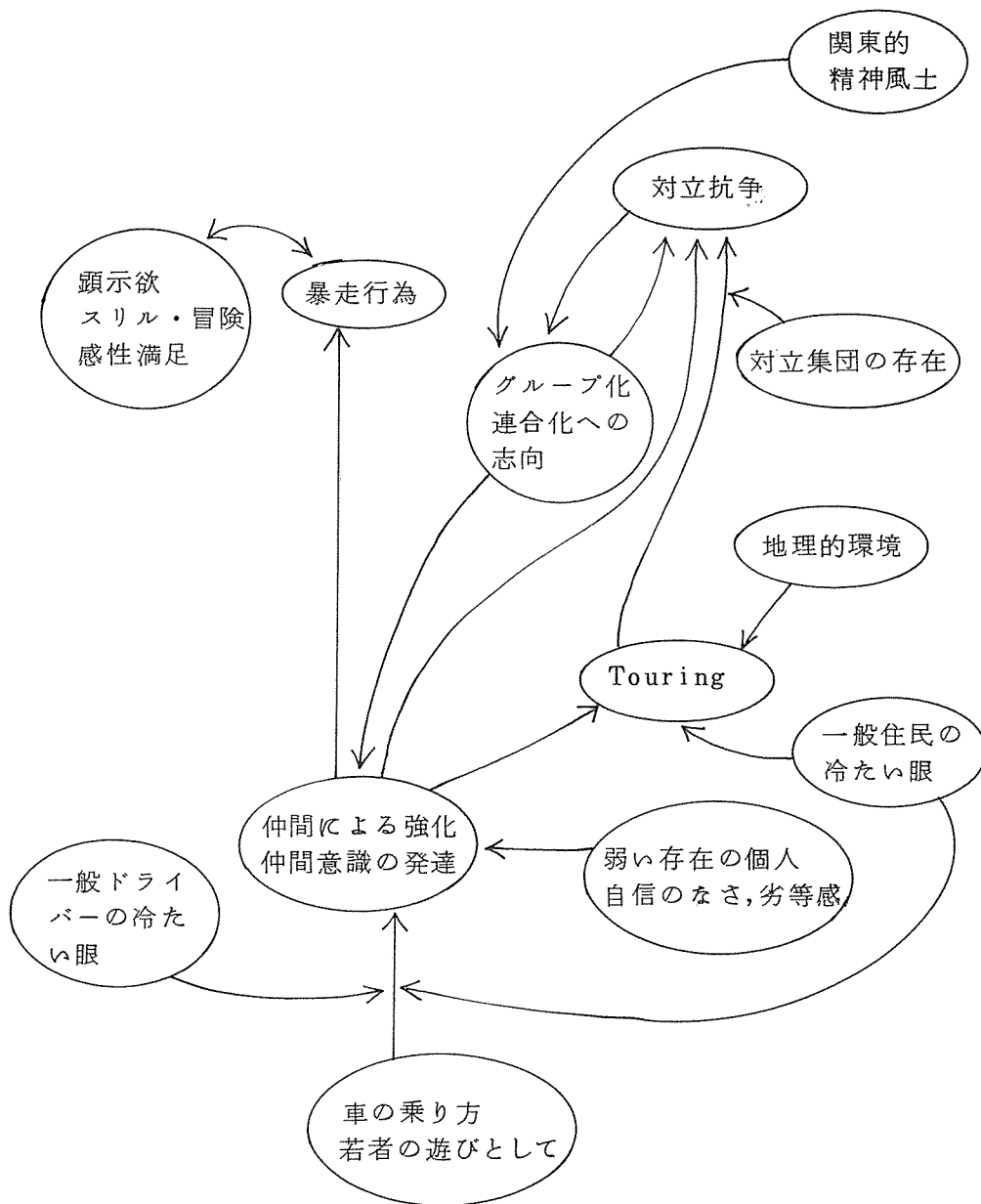


図-27 東日本型暴走族のグループ化ツーリングタイプ要因系統図



V 暴走族研究の今後の方向

本プロジェクトチームは4月以降8月末までの四ヶ月間に7回の会合をもち、暴走族の実態を知ることにより主眼点を置いてきたが、それと共に暴走族問題をどのように考え、どのように位置づけるべきかについてメンバー相互間で種々意見を交換してきた。討議の中にはいろいろな問題が含まれていたが、暴走族問題を研究することの中から一体何がとらえられ、それが今後何にいかされていくべきかということが論議の重要なポイントのひとつであった。それらをまとめると次のような問題になる。

1. 免許制度の問題
2. 車の普及方法の再検討
3. 車の使用方法の一般原則の確立
4. 次代をになう青少年理解と青少年教育の方向示唆
5. 日本文化の東西サブカルチャーについての理解

これらひとつひとつは必ずしも組織的に討論されたわけではないので、項目を列挙するにとどめ今後の報告の中で再度取り上げられ本プロジェクトチームの意見を述べることになろう。

また、暴走族問題研究の今後の方向としては次のような研究テーマが取りあげられるべきことが示唆された。

1. 暴走族発生都市の地域的・社会的・経済的諸条件に関する研究
2. 東日本型・西日本型交通行動の相違に関する研究

ー交通行動にかかわる諸問題のサブカルチュラルな側面からのアプローチ

3. 暴走行為を行う人の諸特性に関する研究
 - (1) 心理・医学的諸特性に関する研究
 - (2) 発達の観点からみた暴走族の個人的要因と環境的要因の研究

本プロジェクトチームは愛知、大阪、広島と居住地を異にするメンバーによる学際的共同研究という所にひとつの特色があった。

この地理的空間的距離をいかに埋めるかということが共同研究遂行に大きな意味をもっていたが、各メンバーの研究への積極的参加の意欲により克服し得たといえそうである。

地理的距離は会合開催の時間的問題をひきおこしてくる。十分に討議時間を持ち、研究実施の打合せを行うためには、メンバーの多くが二日間にわたって本プロジェクトのために時間をさかねばならなかった。

多忙をきわめるメンバーにとってはそれは極めて困難なことであり、会合の多くは土曜日の午後から夕方にかけて開催され、日曜日も犠牲にされることになった。これは今後も同様な事態がおこることになろう。

学際的研究として本プロジェクトは図 2 4 のような研究経過をたどり展開されてきた。

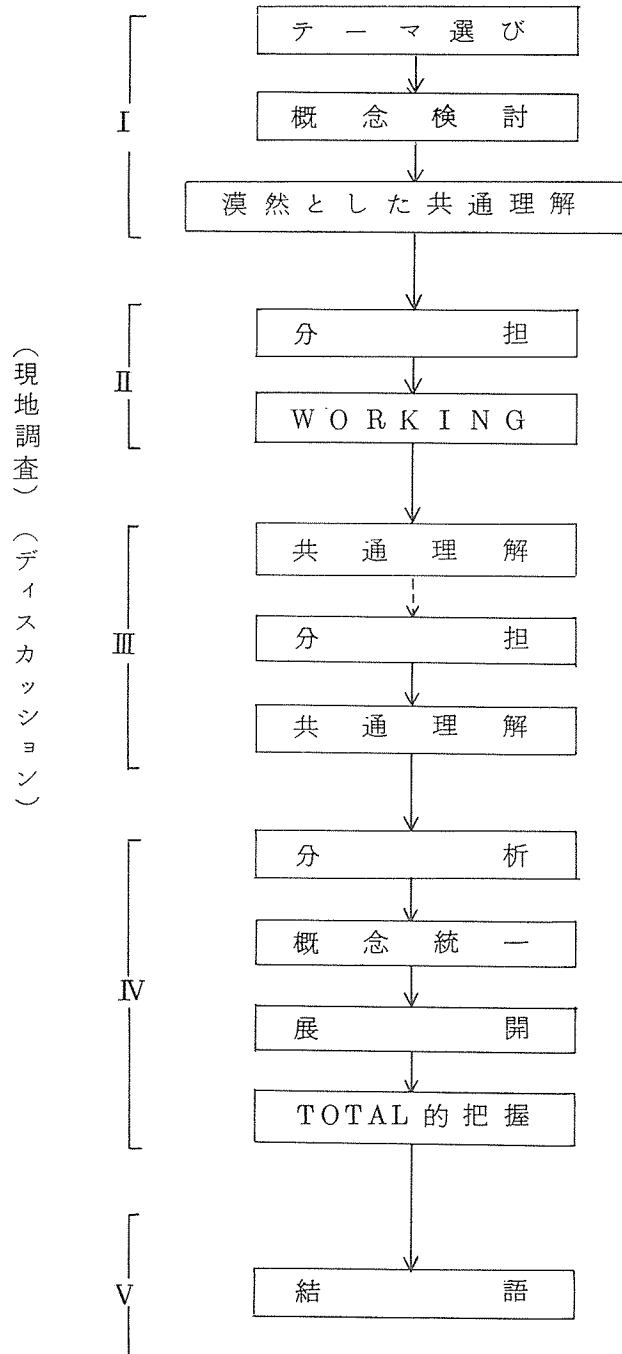
今回のように「暴走族」というテーマが与えられ、全メンバーがそれをどのように究明していくか不明瞭なままに出発したが、「暴走族とは何か」、「どのような角度から究明されるべきか」、「与えられた期限内で何がとらえられ、何は不可能であるかなどが検討され、徐々に暴走族問題についての漠然とした共通理解が成立してきた。

その時点で各人が仕事の分担を決め、实际的調査を実施し、それをもちよって相互に報告しあい、共通理解を得、さらに分担し、共通理解を求め合うところに実際の研究は展開してきた。

事実関係、背後関係が分析され、暴走族の実態がかなり明瞭となると同時に、全体的把握、意味づけ、問題の位置づけも明瞭となってきた。

問題の性質が暴走族という多面的な特質をもっていたことにもよるが、夫々の専門分野をはなれ、研究の方法論についても既成の枠を破ってかなり自由な方法で暴走族の実態を把握するための努力がなされたといえる。

図-28 学際的研究のプロセス



004プロジェクトの会合開催記録をまとめて記しておく。(表-9)

表-9 004プロジェクト会合記録

	月・日	開催場所	出席者	ゲスト	討 議 内 容
第1回	4.14(月)	大阪	3人	千葉	1. 東と西とのちがい認識 2. 進め方について
第2回	5.15(木)	名古屋	3人	千葉 阿部	1. 関東・広島 of 暴走族 2. 今後のスケジュール
第3回	6.21(土)	東京	3人	千葉	1. 大阪・神戸 of 暴走族
第4回	7.10(木)	名古屋	2人 〔欠 鈴木〕	長岡 愛知県警指導課 小林課長	1. 愛知県〔岡崎事件〕の 実態
第5回	8.9(土)	名古屋	3人	長岡	1. 岡山・愛媛・香川・大 阪・京都の実態 2. リポートの方向づけ
第6回	8.23(土)	名古屋	3人	長岡	1. リポートのまとめ方
第7回	8.30(土) 31(日)	大阪	2人 〔欠 鈴木〕	長岡	1. リポートまとめ作業

一附 録

1. 暴走族グループ名の分析

暴走族グループの名前のつけ方は独特の色合いをもったものである。

ブラックエンペラー、レッドローズ、スパイダーマッドエンジェルスなど英語を片かな書きしたもの、飛龍、卍 連合、国土無双、鬼神会、反狂乱など鬼面人を威す式の漢字を用いたものなどがあるが、それを用いる文字によって分類したものが表10である。

なお、これらの名前を同年代の学生に見せて命名について印象を聞き、まとめたものを次に示す。

i 暴走族グループ名命名について

a 情報源

情報源は同じらしい

- テレビ・映画（ヤクザ）・劇画からヒント
- 横溝正史・唐 十郎・寺山修司 等のアングラの作家の作品にでてくるイメージと共通なものがある
- 流行に敏感である一長距離トラックのステッカーと類似

b 他のグループを意識した、りきんだ、気負ったところがあり、目立つように工夫されている。

- 暗くて、湿った感じ（は虫類的な名前）
- 黒・紅の色彩語が多い
- 金よりも銀という表現
- 権力（力）への憧れを示し、自らのグループの統制をとるための強がりがある。
- 時代劇的・仁義的・裏街道的に憧れ、それを求めている

c 命名の印象

- 一見読めないような難字を用いて、見るからに強そうな印象を与える。

- 字面がヤクザっぽい。変体的な書き方、崩れた書き方がふざわしい字面。
- 自己破壊的なものを感じさせる。
ただし、ニヒリスティックではない。
- しゃれている・エレガント・気がきいている 印象はない。

表－10 暴走族グループ名の分析

	片カナ	平がな	漢 字	その他	計
石 川 県	— —	— —	19 100.0	— —	19
静 岡 県	30 43.6	1 1.4	37 53.6	1 1.4	69
愛 知 県	11 50.0	— —	11 50.0	— —	22
京 都 府	1 16.7	— —	5 83.3	— —	6
大 阪 府	5 26.3	— —	13 68.4	1 5.3	19
岐 阜 県	7 53.8	— —	6 46.2	— —	13
広 島 県	7 46.7	— —	8 53.3	— —	15
愛 媛 県	— —	— —	7 100.0	— —	7
佐 賀 県	— —	— —	1 100.0	— —	1
熊 本 県	2 18.2	— —	9 81.8	— —	11
大 分 県	2 22.2	— —	6 66.7	1 11.1	9
兵 庫 県	35 37.2	7 7.4	26 27.7	26 27.7	94
計	100 35.1	8 2.8	148 51.9	29 10.2	285
山 梨 県	8 42.2	— —	10 52.6	1 5.3	19
千 葉 県	24 27.9	2 2.3	58 67.5	2 2.3	86
埼 玉 県	33 28.7	1 0.9	80 69.5	1 0.9	115
神 奈 川 県	70 48.6	5 3.5	66 45.8	3 2.1	144
茨 木 県	11 32.4	— —	23 67.6	— —	34
栃 木 県	24 34.8	— —	43 62.3	2 2.9	69
群 馬 県	1 3.3.2	3 9.7	26 83.9	1 3.2	31
東 京 都	100 47.6	14 6.7	94 44.8	2 0.9	210
青 森 県	6. 27.3	3 13.6	12 54.6	1 4.5	22
岩 手 県	5 18.5	1 3.7	20 74.1	1 3.7	27
秋 田 県	2 12.5	— —	14 87.5	— —	16
山 形 県	— —	— —	7 100.0	— —	7
福 島 県	8 40.0	— —	12 60.0	— —	20
宮 城 県	2 25.0	— —	6 75.0	— —	8
新 潟 県	7 50.0	— —	7 50.0	— —	14
長 野 県	2100.0	— —	— —	— —	2
計	303 36.8	29 3.5	478 58.0	14 1.7	824

左側は実数、右側はパーセント

2. 府県別グループ名について

表－11 府県別グループ名一覧表

岩手県

魔 境

狐 匂 狸

小 次 郎

男 組

金 亀 虫

火 影 幻

第七騎兵隊

蠍（さそり）

孫 悟 空

誠

鷲

影

蛸蛸（おたまじゃくし）

M.T.C.S

M.R.C

紅 蜥 蜴

婆 羅 門

群 竜 伝

牡 丹

夜 光 虫

飛鳥（あすか）

マーシャル

さ そ り

リアス釜石

赤シャツ

一関小次郎

東京プライベート

青森県

北 龍 会

さ そ り

中央連合

鼯鼠（むささび）

夜 鷹

青森連合

奥 州 会

け む り

黒 豹

五所カ原オートバイ
ツーリング

カークラブ 虹

殺風一代

龍（リュウ）

昆沙門天

覆面元祖

さ そ り

OUT LAWS

マーシャル

月 光

ルート20

デーモンギャング

八戸レッドゾーン

山形県

日本帝国

魔 狼 会

天童グループ

上山グループ

山形グループ

新庄グループ

米沢グループ

秋田県

ホワイトローズ

蛇 連 合

殺愛グループ

鷹グループ

北日本カースポーツクラブ

珊瑚礁

殺菌

夜走狂

微菌

蜚蠊(ゴキブリ)

誠竜会

鼠螢(ねずみとう)

爾羅刹(じらせつ)

鬼啾グループ

蝙蝠

本荘連合会

福島県

東北連合会

鬼陰嚇人霸(キケンセキ)
ジンハ

マッドスペシャル

桜会

ブラックイーグル

十字軍

死神

神風

鬼蜻蜓(オニヤンマ)

レッドゾーン

いわき風小僧

シーザ

夜ざくら会

夜光虫

黒豹連合

ブラックジャガー

外道会

郡山ウルフレーショング
クラブ

ホワイトナックル

クラブウルフ

宮城県

女人禁制

宮城連合
クモ宮城連合

仙台マック

バッファロー

東北連合宮城支部

奥州神風連合

夜光虫

黒豹

新潟県

闇法師

イブ

スペクトル

仏(ホトケ)

狂園

夜神魔(ヨジンマ)

スペクター

ブラックエンペラー新潟

鬼

新潟サタン

鴉

餓鬼新潟

マタンキ族

東京都

赤トンボ

アリーキャッツ

青ひげ

アロンウルフ

赤蜻蛉

阿修羅

アル・カボネ

アメンバーオブ
ファミリー

ありんこ

青山グループ

アリ(ANJ)

アント

一寸法師

韋駄天

ウッドペッカー

ウルクアウル

うらみ

エンゼル
エンヂェル
鬼 蜻 蜓
乙 姫
御伽草子
大崎ツーリングクラブ
恐 山
関東の虎
関東連合
関東流星会
神 風
影
カゲロー
影法師
キャビン
九鬼一族
鬼 霊
ファニーダックス
ブラックエンペラー
ブルーリボン
ブラール
風来坊
ブラックパンサー
ブリザード
ベッナス
ホワイトローズ
北 炎 花

ホーク
マッドスペシャル
魔 詞 男
マフアィア
魔 怖 悪
ヌード
まんじ(社)
マンデーツーリング
マ ッ ト
ま む し
鍾(みなごろし)
南 関 東 会
みつばち
ミスターイックス
(Mr. X)
無 念 仏
無 頼
無 一 文
メデュイサ
明 蔵 京
女 神
モナリザ
モード
夜間飛行
耶馬台国
闇 討
闇 翼
ユニオンジャック

ライオンズクラブ
乱 狂
雷 鳥
羅 生 門
ライフライン
センターライン
ゼロニモ
全日本モーターサイクル
第77機動隊
辰 巳
タスク77
田 吾 作
ちんぱんじー
チャップリン
ツーリング
つばめ
とどろ
東京ゴールデンクラブ
東京オーリーブ
東京マッハ
東京日仏レーシング
トーキーグラール
トミーズ
ドンキー
流 水 星
ナンバーワン
ナポレオン

生 麦
日 本 連 合
ニーナ・モーナ
ね こ
ねずみ小僧
ネプチュン
の ん き
野 良 猫
ノ ー マ ル
ベ ラ
ハ ッ チ
幕 府
バウンダー
バンパイヤー
バッハロー
バンバレラー
ハチマキオジサン
婆 羅 門
般 若
昆 沙 門 天
ピンクパンサー
ヒットラー
昆 沙 門
悲 愁
飛 雷 雲
飛 龍
日の丸ジュゲム

鬼 状
鬼 一 法 眼
吸 血 鬼
キ ャ ッ ツ
貴 婦 人
希 望
キングラット
超 人
狂 犬
黒 ト カ ゲ

クラブ16ヨコタ
クレオパトラ
グリデンス
蜘蛛
グループ8
ク シ ロ
クレッション(?)
元 国
胡 蝶
コ ト
五反田暴走族
極 悪
さ そ り
さらまんだ
サン タ ナ

埼玉 FBR
死 十 神
死 神
新 撰 組
下 北 沢
死 掛 忍
仕 置 人
親 衛 隊
親 友 会
し ん 気 楼
姿 麗 人
侵 略 者
ジョーカーズ
寿 限 無
白 鷺
獅 子 舞
スペクター
粋(スモート)人
スピットファイアー
ゼ ロ
センターライン
ゼ ロ ニ モ
鷹
糜爛(びらん)
魂
陸 友 会
竜

竜 神

ルート 2 0

ルート 6 6

ル パ ン

ル ー ト 7

流 狼

レンボーラー

レット・イーグル

連 盟

レデックス

小 次 郎

蜚 蜚

アウトロー

愚猫 (アヒル)

陰 影

ゾ ロ

ロ ー ド

C R C C

OMPC (筑波)

GOLDEN CLUB

SAYAGE

M. R. M

BOSCH

M. A. D

MARCHAL

M. T. C

み つ こ

神奈川県

無 灯 火

親 衛 隊

コ ー モ リ

呼万地 (こまんち)

ロ ー ド

キングサタン

MICRO-LUBE
(ミクロループ)

I C B M

ファイヤーフライ
(ほたる)

ルート 6 6

BUFFALO
(バッファロー)

ロード 4 2

ロードランナー

拳 龍 会

湘南ヘルクイーン

ポインター

般 若

かまいたち

神奈川
レーシング連盟

龍 鳳

ネ コ

白 龍
(ホワイトドラゴン)

ほ た る

蝎蛇 (かつじゃ)

飛 龍

外 道 R C

クレオパトラ

渡 鳥

鬼 DEMON

関 東 虎

B W R N

必殺仕掛人

天 龍 会

ハーケンクロイツ

関 東 騎 士

白 鳥

NEKO (猫)

霊長 (れいちょう)

紅 孔 雀

ブルーイーグル

ヒットラー

獅 子 舞

パビヨン

恐 山

九 紋 龍

さ そ り

ジョーカーズ	ゼロ(神奈川 レーシング連盟)	ワン・ライン
C R C C	青 ひ げ	ビル・レイン
東京連合	戦 艦	仕掛人・グループ
シルクロード	阿修羅(あしゅら)	ルート 2 0
バンパイヤーグループ	紅蜥(べにとかげ)	第 7 騎兵隊
日陰人グループ	影 法 師	音
昆 沙 門 天	シャイアン	騎士(ナイト)
三国ライダーズ クラブ	乱 舞	崇族(スー族)
レッドクラブ	波 布	ゲシュタポ
け む り	ブラックエンペラー	PIERO(ピエロ)
ニーナ・モーナ	ライフ・ライン	横浜サタン
一 角	地 獄 族	鬼輪番(おにわばん)
東京 T R C	ハニー・チャイル	横須賀連合
関東流星会	糸 蜻 蛉	鬼 面 党
燕(つばめ)	妖鬼姫(ようきひ)	ジュピターデーモン
牙	寿 限 薬	イ ー グ ル
虚 無 僧	く び と	狂 走 族
ホワイナックル	寿	ア ト ラ ス
横浜レーシングチーム ロードランナー	龍	ル パ ン
レッドゾーン	TEAM ROYAL (チームロイヤル)	デビル・ウイング
死 神	ジェロニモ	武 州 連 合
揆厳漸(きげんぜん)	ホワイ・ローズ	アル・カボネ
キングラット	アーリーキャッツ	爆 雷
ゴリラクラブ	ゼロ(ZERO)	摩 天 楼
スペクター松田支部	エンペラー	ピンク・パンサー
湘南スパーク	無 頼 漢	南 十 字 星
相 模 騎 士	ブラック・パンサー	ねずみ小僧

バ ラ
天 龍
マッド・スペシャル
関 東 連 合
川崎 A I A X
 (アイアックス)
キュービット
 (C U P I D)
侍
ス ズ
ア ニ マ ル
チ ェ イ ス
ターゲット
蛇
ブレンバスター
小 次 郎
エ ル ザ
神 南
鬼 仏

山 梨 県

カ ト レ ア
蝙蝠(こうもり)
フェニックス
チャレンジャー
ヘルスエンジェル
影
悲 恋

悲 愁
闇 の 翼
センターライン
バ ピ ヨ ン
黒 騎 士
フェニックス憲兵隊
燕(つばくろ)
熊 蜂
プレイ・ボーイ
黒 豹
バックファイアー
鼠 小 僧

栃 木 県

関 東 連 合
北関東連合
紅 蠍
キャッツアイ
 RC・宇都宮
一寸法師
飛 龍
矢板レーシングクラブ
蘭 奢 待
RED ZONE
EAST-C
韋 駄 天
F . T . A

鹿沼レーシングクラブ
釣 天 井
RESISTANCE
塩原オリオンズ
昆 沙 門 天
愛 と 誠
御意見無用一代
栃木 F . R . M . S . C
KEAN アルファー
鬼怒川 R . C
R . C 紫陽花
 ルート 1 2 1 号
P I T I N
足利カークラブ
グループM 不死鳥
悪 太 郎
SPIDER
 (スパイダー)
紅 蝙 蝠
影 法 師
モ ナ リ ザ
流 天
WEBER
運 命
思 川 連 合
セブン・アロー
黒 い 蝶
飛 龍
琥 白

アダムとイブ

マ ッ ポ

南無阿弥陀仏

己

交 友 会

鬼 霊

那 須 連 合

ブリザード

蠍

薊

豪士会・神風連

濡 燕

無 情 の 夢

黒 豹

I B I

阿 修 羅

北関東風車

エンジンバラ
レーシングクラブ

関 虎 東

弁 天 小 僧

JERONIMO・
ROUTE-4

任 俠 一 代

極 道 無 宿

不 死 鳥

NOR THWESTERN
FACTORY IB CLUB
IN TOCHIGI

男 組

O.F.C.C
(04チャレンジクラブ)

緋牡丹博徒
関東極道会

真岡グループ

群馬県

南無阿弥陀仏

間 魔

大日本帝国

チーム夜蝶

親 衛 隊

不 知 火

黒 豹

伽 草 紙

赤 と ん ぼ

白 虎

龍

仕 掛 人

摩 神 龍

関東連合昆沙門天
桐生支部

羅 生 門

摩 天 楼

鳳 凰

狂走族 亡霊

卑 弥 呼

関 東 龍 虎

旅 が ら す

ハイウェイの星

関東沙墓猫

紅 孔 雀

蘭 法 師

や ま び こ

薔 薇

蛇 虎 龍

藤岡卑弥呼

呪 啼 夢

キャビン

千葉県

伊 賀 龍

杏 紫 良
(あんじゅう)

一寸法師

ICBM(九鬼)

悪 戯 小 僧

裏 切 者

M A D

A N G E L
(エンゼル)

鬼 弁 慶

関東日乃丸

蟬 蝦 (かげろう)

関東東京連合

関東菊飛車

鬼 矢 死
木間ヶ瀬
モトクロス
吸 血 鬼
狂庵(くるま)

くちづけ
黒 潮
GROUPIN
CHIBA

極 楽 寿
胡 蝶
サ タ ン
沙巢来(さすらい)

神 竜
寿 限 無
修羅雪姫
新 東 組

人 力 車
JUPITER
(ジュピター)
呪 喘 夢
(ジュテイム)

スペクター
SUMIRE

ZERO(ゼロ)

S O U L

ZORO(ぞう)

大 日 帝 国

東京連合元国

寅

轟(とどろき)

TORTOISE(トータス)

ナンバーワン

七 光 台

生 弓 矢

ニーナ・モーナ

任 俠 伝

女人禁制

ねずみ小僧

幕 府

薔 (ばら)

飛 龍

火 の 鳥

ピ エ ロ

ブラックエンペラー
関東連合

ペガサス

弁天小僧

東京マッハ
(MACH)

鼯鼠(むささび)

悶 狐

喪阿(もあ)

紋 白 蝶

妖 輝 緋

妖 星

ランサーズクラブ

欄 欄

東京ルート20
ゴースト

乱 悪 性

BRACK LIZARD
(黒トカゲ)

紅 蜘蛛

EASY-O
(イージーオン)

影

侵 略 者

日本国連合

流 れ 星

房 総 連 合

ホワイトローズ

ま ん じ

雷 鳥

幻

第七騎兵隊

源 氏

蘇我 RENGU

貴 婦 人

東京スネーク

東京連合

桐

茨城県

紅 蝙蝠

弁天小僧

ゲジゲジ

ナナハングループ

卍グループ極悪

KUJIRA

ゲジゲジバイ筑波

関東独走連合会
龍賀 茨城親衛隊

マーシャル

BULLET

常 陸

女 王 蜂

東 関 東 同 志 会

新 栄 隊

追 跡

北 斗 七 星

菊 飛 車

レッツ モナリザ

桐

夜 光 虫

キングシャーク

若 竜 会

番 友 会

JOKERS

三 国 師

小 次 郎

白 雪 姫

豊 梅

爆 輪 会

蠅

ブレイボーイ

キャビン 茨城支部

貴 族 院

静岡県

稲取ジョーカーズ

蟻 地 獄

義 賊

黒 潮

スペクター(清水)

ビ ー バ ー

キングサターン
(御殿場支部)

梟 鴉 (ふくろう)

ス ワ ロ ー

レッドゾーン

SMS C (島田モーター
スポーツクラブ)

スワローレーシングチーム

MFSH (マウント富士
レーシングチーム)

ジョーカー

飛 龍

ナイトキャッツ

レッドスター

修 羅 雪

EAGLE (イーグル)

牙

LEMOM (レモン)

ク ー ガ

ゼロ (ZERO)

幕府 (GROUP)

チェリーシーク
(CERRY SEEK)

呪 啼 夢

M.R.R.C
(馬込レーシングクラブ)

TEAM闇
(チームヤミ)

モ ナ リ ザ

蜘蛛
(ENSHULENGO)

R.C.C.N
(レーシングクラブヌマズ)

紅 薔 薇

吉原般若会
(富士競争自動車クラブ)

焼津クロシオR.C

昆 沙 門 天

赤 と ん ぼ

人 力 車

鳳凰 (ほうおう)

蝙蝠 (こうもり)

「龍」No.7 号

蘭

阿 修 羅

夜 鷹

竜 華 嚇

神 風

憲 兵 隊

サ ム ラ イ

SANTANA

掟 (おきて)

C . C . R

女王蜂(女王蜂浜名湖
西部連合会)

颯怖夷(くふい)

墮扉泥(だびで)

蜘蛛の糸

歌 磨

五鬼無痢

蜂蛇(つちのこ)

H . BEE

RIDDLE(りどる)

輝理素徒(キリスト)

一寸法師

恋 紅 蓮

虫 の 息

愛 と 誠

浜松 ブラック
パンサー

スペクター伊東支部

MAGICIAN(魂)

中部 連 合

レ モ ン ズ

埼玉 県

スペクター

ブラックエンペラー
寄居支部

東京連合白鷺

葦 慈芽瘡
(いじめっこ)

サ ソ リ

曼 陀 羅

忍

薔 薇

ジョウカーズ

青ホスペクターズ

燕

満 怒 離 流

沙 霊 門

エンタープライズ

川口新友会

U . F . O

ブリザート

スピットファイヤ

救 世 主

虎猫(ドラネコ)

伽 草 子

卍

ルート 2 0

関 東 虎

マ ッ ク ス

鎧(みなごろし)

赤蜻蛇(アカトンボ)

獄 死

狂 走 族

零

厩鼠(ドブネズミ)

蘭

馬 風

神 風

野 良 猫

ノーマル

鬼 輪 番

男 女 男

A T C

関東流れ星会

山 梔 子

銭 形 平 治

孫 悟 空

鼠 小 僧

全日本狂走連盟

東 京 連 合

L I O N S

クレージー

桐

東京スネーク

貴 婦 人

獅 子 舞

昆沙門天狭山支部

春 秋 秋 冬

マッドスペシャル

武州連合
アドミックバブ

ハチマキオジサン

雛 麗 栗

野 菊
極地連合会地獄
アイビーグループ
キングラット
チャップリン
関 東 連 合
関東所沢
地獄の天使
北 竜 門
黒 バ ラ 会
死 掛 忍
ハニーチャイル
陽炎（かげろう）
飛 雷 雲
関東連合魔布悪
ゲシュタポ
P U B L I C
鯰 猫
の ん き
鬼 面 党
蛭
池 袋
アリーキャッツ
ウルフカウル
琴
魂
MRP CHAL
猫

極成連合会
一寸法師
鬼一法眠
Z O R O
サ レ ード
糜 爛
極 悪
紫 炎
新武線会
ツーリングクラブ
蛟 龍
寅
鬼 龍
サンタカ
遠 鼠
流 れ 星
女 人 禁 制
クラブ風来坊
蜜 蜂
小 次 郎
昆沙門天
深谷支部
青 葉
コンバット
阿 修 羅
瓜（東京連合）
夜 蝶
主 猛 嵐
埼玉 FBR

北関東神風連合会
マイティマウス
白 龍

兵 庫 県

銀 輪 会
青 龍 会
獄 龍 会
大阪黒い蘭正紡派
ツーリングクラブ
一 角 獣
ブラックイースト
大阪No.5ロード
名称なし
（川鉄建材グループ）
名称なし
（東遊固地・花時計）
マ ー フ ィ
ブラックイーグル
名称なし
（大久保G）
芦屋キャット
六甲ツーリングクラブ
尼崎オートテクニカル
クラブ
デビリス・エンジェル
青 輪 会
神崎連合会

有岡モータークラブ

赤 と ん ぼ

幻 会

陸 栄 会

北 新 会

もみじクラブ

天狗クラブ

ば ら 会

す み れ 会

チャレンジャー

ヘルダイバー

ゴールドホーク

カ ボ ネ

ブラックビースト

シ ャ ド ー

バイソン・パンチ

名称なし
(赤シャツG)

国 分 会

兵庫県(解体グループ)

U・S・Army

コ マ ン チ

ホットドッグ

名称なし
(外人G)

六甲ライダーズ

か げ ろ う

ウィングⅡ世

侍

神

エ ス ア ル

多 聞

ドングリチーム

モータースポーツクラブ

サタンオートクラブ

西 龍 会

共栄会
ツーリングクラブ

Wild Motor

ペガサスエンジェル

富 士 山

も み じ 会

名称なし
(魚住中学出身G)

播 州 虎

菊 水 会

名称なし
(加西G)

中 町 会

ヘルダイバー
(加古川)

ヘルダイバー(志方)

ラインコンドルス

虎

名称なし
(神南中学出身G)

名称なし
(増位中出身G)

社会探訪G

セフテーオートクラブ

ム ー ン バ ッ ト

新 番 長 会

バギーグループ

バッファロー

黒 統 会

赤 と ん ぼ

淡路千鳥会

友 交 会

愛知県

蝮(まむし)

ホワイトスネーク

浮浪雲(はぐれぐも)

2 0 面 相

ホワイトパワー

ボ ニ

兎

ク ー ガ ー

つさかレーシング

TRM(高蔵レーシング
チーム)

ア パ ッ チ

ブラックスパイダー

鶴

口 紅

チームチャップリン

鼠 小 僧

九 紋 竜

ブラックホース

ブラッククィーン

翼

女 王 蜂

鋺(みなごろし)

京 都 県

虎 武 羅

ブラックイーグル

聖

葵

外 道 会

生 無 魔 道

岐 阜 県

岐 阜 連 合

岐阜ドライブチーム

床下チーム

風 林 火 山

鷹自動車倶楽部

U . F . O

風 車

サ タ ー ン

二輪グループ

フィッシャーマン

葬 流 者

シ ャ ド ウ

イトヌキカークラブ

大阪府

関西〇〇会

U . S . O

W E B E R

P E T E R P A N

泉州連合

浜っ子クラブ

般若チーム

W O R L D

銀 輪 会

R . C

近畿群竜会

白 龍 会

関西輝鷲会

黒い蘭グループ

岸和田 R A C

悪徳ライダーズ

泉州往心会

泉州飛龍会

石 川 県

疾 風

蝶

女人禁制

誠 友 会

極 東 無 宿

娘

富 菱 娘

蛇

蝮

男 爵

雷 神

蜘蛛

黒 豹

沙 巢 来

鷹

若 獅 子

高岡自動車倶楽部
北陸連合グループ

女 王 蜂

猫

広 島 県

西原グループ

クローバー

F.M.S.C
(福山モータースポーツクラブ)

コ ブ ラ

紅悪魔
(レッドサタン)

黒 豹

ニューチームカー
エンゼル

飛 龍

魔 龍

広島飛鳥

チーム不思議

チームジョーカー

モンロー

箱崎グループ

アドベンチャー

愛媛県

天皇グループ

卍グループ

誠

朝倉グループ

乃亜グループ

霊神愚血一無

王将10人会

佐賀県

騎兵隊自動車競争
倶楽部

熊本県

白 鳥

モナリザ

飛 龍

サ ソ リ

鳴 門

球 磨 川

和 鹿 島

寿

不 知 火

伊 集 院

無 名

大分県

別 府 侍

轟グループ

佐々木グループ

宿利グループ

陸 友 会

チーム・レッドゾーン

レッドスター大分

チームバット

極道無宿